

住吉っさん

海の神
おほしーの神
安土屋の神



ご挨拶

去る十月十三日に「二〇二五年日本国際博覧会（略称 大阪・関西万博）」は盛会裏に閉幕となりました。海外や日本各地から多くの方が来阪され、境内も万博来場に合わせて参拝された多くの方々で賑わいました。

顧みますと前回の昭和四五（一九七〇）年の万博が閉幕した際、高度成長期という時代背景も重なり、大阪は未来への希望溢れる雰囲気が漂っておりしました。現在、大阪の中心地である梅田や難波は大規模な街の再開発が進み、更に万博が成功したことで前向きな機運が生まれ始め、これまで停滞していた時代から一歩前進した感があります。

これから大阪が活性化する中で、住吉大社にも多くの方々に足を運んでもらい、更に住吉大神様の御神徳を宣揚し、当社の次の御遷宮に向けて諸所準備を進めて参りたいと存じます。

さて、来る令和八年は丙午年ひのえうまでございます。当社の神馬「白雪号」がお仕えして、年明け早々一月七日の「白馬神事あおうましんじ」で境内を駆け巡ります。古来より年の初めに住吉大社で白馬を見ると邪気が祓われるとされ、当社にとりまして午年は吉年に当たります。また、丙ひのえは「陽の火」、午うまもまた「火の気」を持つとされ、情熱と活力に満ちた年になると存じます。この強いエネルギーを挑戦への原動力と捉え、若い世代の方々が中心となって前進し、困難の中にも新たな可能性が芽吹く年となりますことを願っております。

結びにあたり、謹んで皇室の弥栄と御国の平安をお祈り申し上げますと共に、皆様のご多幸をご祈念申し上げご挨拶と致します。



住吉大社宮司 神武磐彦こうたけい わひこ

「すみよし区民まつり」に

神輿・住吉踊・獅子舞が特別出演

令和7年10月25日(土)、住吉区役所に隣接する沢之町運動場にて「住吉区制100周年記念すみよし区民まつり(第51回)」が盛大に開催されました。

開会式のメインステージ前では神輿(中神輿)がお披露目され、住吉区長・橘隆義様の力強いご発声による手締めで区民まつりの幕が開けました。会場には各地域や団体による模擬店が開かれ、ステージなどでは様々な催しがありました。

プログラムの最後には、神輿、住吉踊、御祓講獅子が一堂に会して実演し、会場は熱気と歓声に包まれました。神輿は会場内を練り歩き、観客との一体感を生み出しました。なお、今回の神輿は、住吉神輿会に加え、生根神社神輿会、若松神社神輿会、花神輿実行委員会など、地域の複数団体が力を合わせて担ぎ上げる「オール住吉」体制で行われ、世代や団体を越えた協力が、地域の絆をより一層深めました。

実演の最後には、大阪市長・横山英幸様のご発声による手締めが行われ、盛大な拍手の中で区民まつりが納められました。

地域の歴史と文化を次世代へとつなぐ、記念すべき一〇〇周年の区民まつり。参加者の笑顔と熱気が、住吉の未来を明るく照らす一日となりました。

100年前のメモ

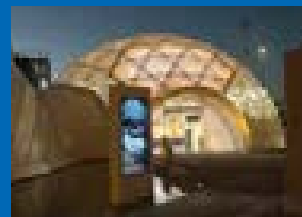
令和7年(2025)から100年前、大正14年(1925)4月1日、第2次大阪区域拡大によって住吉大社周辺の旧東成郡住吉村・墨江村など44町村が大阪市に編入となり、「大阪市住吉区」が誕生しました。この時の大阪府は、当時の東京市を人口・面積ともに上回り、「大大阪」と称される日本一の都市となったことでも知られます。

ちなみに、編入前日の3月30日には、旧東成郡の郡長・木下貞太郎氏をはじめとする関係者60名が住吉大社に集まり「東成郡解散式」を執行しています。さらに、編入時の4月1日には、住吉大社で「東成西成両郡編入奉告祭」が行われ、当時の市長代理として大阪府収入役・高久要氏が幣帛を供進しています。その後、昭和18年(1943)阿倍野区・東住吉区(後の平野区を含む)が住吉区から分かれ、昭和49年(1974)には住之江区が分区となりました。

このたびの大阪・関西万博は、一般来場者数が二、五五七万人に達し、盛況のうちに閉会を迎えましたこと、誠に喜ばしく存じます。

住吉大社では、開催に際し、会場施設工事の安全祈願祭や地鎮祭などを奉仕いたしました。また、開催直後の四月・五月には、特設会場において神前結婚式、住吉祭の大神輿の展示および実演を執り行い、報道関係にも大きく取り上げられました。これらにつきましては前号にてご紹介申し上げましたが、その他にも各パビリオンが企画するイベント・催事への出演依頼を受け、神社の広報活動や祭典の奉仕を行いましたのでご紹介いたします。

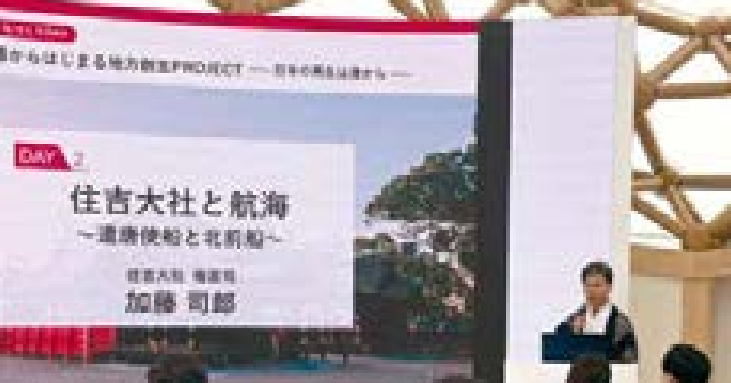
令和七年五月一日（日）、大阪・関西万博ブルーオーシャンドームCドーム内にて、『ゼリ・ジャパン海の万博プロジェクト』「港まちづくりDAY」が開催され、神社から権宮司の加藤が参加し、「住吉大社と航海く遣唐使船と北前船」をテーマに講演を行いました。このパビリオンでは、近年問題となっている海洋プラスチックごみのゼロを目指し、海洋資源の持続的活用と海洋生態系の保護をテーマに、海に関連する各種イベントが企画され、「港まちづくり



EXPO2025 大阪・関西万博 と住吉大社

DAY」はこの一環として、海・港・都市の発展の関連性を考察するシンポジウムでありました。摂津国一宮である住吉大社の大神が海の守り神として、古来より今日に至るまで難波の海と行き交う船を見守ってこられた歴史的な経緯を、参加団体の方々や来場者の皆様に知っていただきたいという主催者の意向を受けての出演でありました。

また、令和七年九月九日（火）には、大阪・関西万博大阪ヘルスケアパビリオンにおいて、大阪産業局を中心に、なにわあきんど塾同友会・大阪市産業経営協会・大阪市女性起業家情報交流協会の三者が共同で、



加藤権宮司が、「住吉大社と航海～遣唐使船と北前船～」をテーマに講演



「招き猫プロジェクト」の成功祈願祭の様子



住吉の「招き猫」をイベントのモチーフとして企画された「招き猫プロジェクト」

万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に則り、未来の大阪の都市と産業の発展を期して執り行われた「招き猫プロジェクト」というイベントの成功祈願祭を、パビリオン内のステージにて奉仕いたしました。

このイベント名称「招き猫プロジェクト」とは、大阪の繁栄を築き上げた大阪商人たちが商売繁昌を願って行ってきた、住吉大社への願掛け「初辰まいり」に倣い、その御利益を授かるお守りである住吉の「招き猫」をイベントのモチーフとして企画されたものであります。「初辰まいり」は今も多くの人々の信仰を集めており、その由縁により祭典を奉仕いたしました。

いずれも、住吉大社と関わりの深い意義あるイベントでありました。

大阪湾の海上・夢洲を舞台に開催された今回の万博には、海の守り神であるという御神縁をもって、住吉大社も数々の行事に参加することができました。当社にとりまして、誠に意義深い大阪・関西万博であったと、深く感じております。

関係者の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

住吉大社 権宮司 加藤 司郎

倭王権と住吉津

森田 克行
(高槻市文化財アドバイザー)

一、倭王権枢要部の地理的な枠組

古代、倭（やまと）王権の政治拠点である奈良盆地には多くの王宮が営まれた。ところが大和が外海と隔たっているため、外交・軍事・物流の要となる王権の要港は近隣の適地に求めざるを得なかった。奈良盆地の北側には木津川・淀川の流れが北回りで、西側には盆地内に扇状に広がる大和川が西流し、それぞれの河口は大阪平野でデルタを形成する。ところが大和川筋は亀瀬などの難所がいくつもあり、古代から現代に至るまでおよそ水運には適さない。そうした事實は、律令期の淀川・木津川水系には舟運を公的に管理する「河港」が山崎津など八か所置かれていたのに対し、大和川水系には一切設定されなかったことからも頷ける。

一方、木津川・淀川筋は河口から山崎の三川合流地点、さらに上流の泉津（木津）

まで瀬や淵がなく、加茂・笠置に至ってようやく瀬があらわれることから、古来、泉津から淀川河口への舟運は十分に確保されていた。江戸時代に降るが、元和六（一六二〇）年からの大坂城再築に際し、藤堂高虎が伊賀上野の島ヶ原で切り出した花崗岩の集積地を加茂の西側の河川敷に設けたのも、木津川・淀川筋の水運状況を熟知していたからだろう。この木津川・淀川水系、じつは椿井大塚山（木津川市）、芝ヶ原一・二号（城陽市）、五塚原（向日市）、安満宮山・岡本山（高槻市）、森一号（交野市）など、畿内地域でも、最古相の古墳があまねく分布していることでも知られ、瀬戸内に通じる水運ルートが王権によっていち早く整備、掌握されていた様子がうかがえる。

二、淀川河口の倭王権の拠点港

私は、多くの王宮が営まれた奈良盆地の



図1 古墳時代の住吉地域とその周辺（地形復元図）

枢要の地を王権の奥座敷、そして淀川河口部に設けられた直轄港が整備された地を表玄関ととらえ、この両者が相俟ってはじめて、倭王権の態勢が完結すると考えている。飛鳥・奈良時代の大和諸京と難波津の關係性を先取りしたものといえよう。

さて「表玄関」のことである。いにしえの大阪平野について、梶山彦太郎らは河内湾から河内潟を経て河内湖に至る数枚の古地理図を作成した。図1―①は古墳時代の河内湖の復元図で、南から北に延びる上町台地とその北側の天満砂州（砂嘴）、そして東側の入海（汽水域）と北から流れ下る淀川と南からの大和川のデルタを表示している。また復元図には『日本書紀』などに記された港津にかかる古地名などを加筆し、以下の検証に備えた。

神功摂政元年紀に、新羅討伐後の神功皇后一行の難波への凱旋に対し、麿坂王、忍熊王による木津川・淀川筋を舞台にした反乱伝承が記されている。反乱に際し、「獅子らは菟鉋野で神意をうかがう祈狩をしたところ、赤い猪が麿坂王を食い殺したため、忍熊王は一旦住吉まで退却した」という。その後、神功皇后が武庫の港に遷って占ったところ、まずは広田、活田、長田で一連

の神祀りをおこない、さらに表筒男・中筒男・底筒男の三神が「吾が和魂をば大津の湊中倉の長峽に居さしむべし。便ち因りて往来ふ船を看さむ」と告げた、という。忍熊王が退却した住吉について、一般には現在の住吉大社が鎮座する上町台地の南寄りの地とするが、いささかの疑念が残る。

また『古事記』仁徳段には「茨田堤また茨田三宅を作り、難波堀江、小橋江を掘り、また墨江津を定めたまひき」とあり、さらに仁徳十一年紀にも、堀江の開削と茨田堤の築造目的を述べている。いずれも淀川の中流域から河口部での一連の土木事業であり、その施工理由はひとえに墨江津の整備推進であつた。とりわけ住吉三神が加護する墨江津としている点は重要である。

墨江津の具体相は『住吉大社神代記』収載の「長柄船瀬本記」に遣唐貢朝使船にかかる船舫の泊、すなわち住吉神が看護する長柄船瀬の範囲が示されている。その四至は「東限、高瀬・大庭。南限、大江。西限、鞆淵。北限、川岸」とあり、高瀬、大庭は淀川南岸近くの守口市に遺称地、鞆淵は毛馬開門のすぐ東側に都島区友渚町が確認され、北限の川岸は現在の神崎川北岸の吹田市川岸町が相当する。南限の大江は大川に

流れ込む寝屋川の川筋が妥当なようだ。そこで長柄船瀬の四至の遺称地を図1に落とし込んでみると、すべてが淀川デルタに位置づき、かつての長柄船瀬、すなわち墨江津が淀川河口から天満砂州の東側の内海に広がっていたことが解る。これはさきに大和川が水運には適さなかったとした私論とも整合する。

長柄船瀬が遣唐使船発着の港とする思考は『延喜式』の「遣唐使時奉幣」祝詞を「(略)皇神の命以て船居は吾作らむと教へ悟し給ひき 教へ悟し給ひ 那我良船居作り給へれば 悦び嘉しみ」と読み解いた田中卓の「那我良船居即長柄船瀬」説にあきらかであり、ひいては淀川河口部にあつた長柄船瀬が墨江(住吉)津そのものと考えられる。さらに言えば、『古事記』仁徳段の「難波堀江」の開削記事は、住吉津が難波津へと発展したことが強く示唆される。のちに総括しよう。

三、『万葉集』のスミノエ

通説では、住吉津は現在の住吉大社の西浜あたりとする考説が圧倒的に多い。根底に住吉津と淀川河口の難波津は別個の港津との思い込みがあるようだ。これまで住吉

大社周辺では王権の直轄港、少なくとも外交や軍事にかかわる具体的な港湾遺構や対外交易のうかがわれる外来の遺物などは未確認で、史料の解釈においても予断が先行しているように思われる。とりわけ万葉歌による住吉津の位置比定は多くの課題があり、以下に検証する。

『万葉集』のなかでスミノエは住吉、墨吉、清吉、須美乃延、須美乃江などの表音文字で記されるが、表意的には澄之江の雰囲気だったかと思える。さてスミノエを詠んだ歌は三九首四一例を数える。用例的には「スミノエの」型の三八例、「スミノエに」型の三例である。

「スミノエの」型は第一～四群に分類される。第一群は「スミノエの＋「特定地名、施設」」で具体的な対象地や施設、第二群は「スミノエの＋「不特定の場所、地形、事物、催事」」で普通名詞の対象地など、第三群は「スミノエの「人名、人物」」で人名や対象人物、第四群は「スミノエの「神名」」で対象神が、それぞれ記される。小稿は住吉津の比定地を探る意味合いから、ここでは地名にかかる第一、二群を取り上げ、表1に具体の文言を一覧した。

まず注目する歌は第一群の「御津」を詠

み込んだ『天平五（七三三）年 入唐使に贈る歌』四二四五で、「そらみつ 大和の国
あをによし 平城の都ゆ おしてゐる 難
波に下り 住吉の 御津に船乗り 直渡り
日の入る国に 遣はさる 我が背の君を
かけまくの ゆゆし畏き 住吉の 我が
大御神 船の舳に 領きいまし 船艫に
み立たしまして さし寄らむ 磯の崎々
漕ぎ泊てむ 泊泊に 荒き風 波に遭わせず
平けく 率て帰りませ もとの朝廷に」とある。年紀から多治比広成が率いる遣唐使節団の派遣時に詠まれたもので、「平城京から難波に下り、住吉の御津で乗船、唐に遣わされる大切な人を住吉神の加護により無事に帰還してほしい」というほどの意である。この「住吉の御津」も識者の多くは住吉大社の西浜とするが、天平五年の遣使となれば難波津を指すことは疑いない。そうであればこそ、大和から歌姫越えて木津、そこから船で木津川、淀川を下った事実が「平城から難波に下」ることになる。奈良時代に難波津を住吉の御津と詠む状況は、住吉神が加護する長柄船瀬Ⅱ那我良船居を、倭王権が住吉の大津、住吉津、難波津と一途に発展させてきたことを裏付ける。冒頭の麿坂王らの反乱伝承の舞台も、大和から

木津川・淀川筋を下りきた河口部であり、その背景には天満砂州の菟餓野の東浜を含む「住吉の大江」の確保が念頭にあったからだろう。やはりスミノエの故地は天満砂州を含む上町台地北部の広大な領域だったと考えられる。

第一群の残り一一例のうち浅香、得名津、粉浜、遠里小野、岸野、敷津は、いずれも住吉大社の近傍地とされている。岸野は竹取翁の説話にかかる長歌三七九一に対応する歌の一つにあり、遠里小野を指すという。

表1 万葉歌にみる「スミノエ」型の第一群と第二群の用語一覧（四桁数字は歌番号）

第一群 12例13首 スミノエの 〔地名、施設〕	浅香の浦（〇一二一） 得名津（〇二八三）、野木（〇二九五） 粉浜（〇九九七） 名兒の浜辺（一一五三） 遠里小野（一一五六、三七九一） 波豆麻（一二七三） 出見の浜（一二七四） 浅沢小野（一三六一） 敷津の浦（三〇七六） 岸野（三八〇一）、御津（四二四五）
第二群 6例20首 スミノエの 〔地形、情景〕	岸（〇九三三、一〇〇二、一一四四、一一四六、一一四七、一一四八、一一五〇、一一五九、一七四〇、二二四四、二七三五、三一九七） 浜（〇三九四、〇九三一、二七九七、四四五七） 沖つ白波（一一五八） 小田（一二七五） 里（一八八六）、小集樂（三八〇八）

また得名津を詠った高市連黒人の歌〇二八三は「墨吉の 得名津に立ちて」とあり、「墨吉」に所在する得名津での情景がうかがえ、実際に榎津の所在地からしても、住吉大社近傍地とする狭義のスミノエをさす可能性はのこされる。ただ歌三〇七六の「住吉の 敷津の浦の」の敷津は住吉区のほかに、浪速区に敷津松之宮が鎮座し、いま一つの候補地となる。もし浪速区ならば狭義のスミノエからは外れ、歌の「住吉」は里（郷）の上位の行政区である住吉郡（もしくは評）といった、広義のスミノエになる。

また野木、名兒、波豆麻、出見、浅沢小野は、地名が明示されるものの、場所が特定できない。波豆麻は勝間（西成区）とも、波止場の意とも推測されるが、「住吉の 波豆麻の君が 馬乗衣 さひづらふ 漢女を 裾きて 縫へる衣ぞ」一二七三の歌意から、波止場では意味が通じず、地名の勝間ならばこの「住吉」も広義の住吉郡を指すものとなる。そもそも「スミノエの + 「地名」」の場合、地名にかかるスミノエが住吉郡ならば、そのなかに榎津などの郷名や下位の地名が包摂されるのは必然なことであろう。第一群で場所が特定できない他の事例についても、スミノエは住吉津ではなく、住吉

郡（評）だったのだろう。

第二群は二〇首中、「岸」が一二首、「浜」が四首、「沖つ白波」が一首で、海岸や水辺の情景を詠うものが圧倒的に多い。やはり注釈書の大半は住吉区あたりの狭義のスミノエとしている。果たしてそうだろうか。古墳時代から古代にかけての上町台地は西側が大阪湾、東北側が河内湖で、北側は五世紀以降、倭王権の基幹港が整備されていた。いわば陸続する南側を除いて、沿岸地帯であり、なぜに場所が特定されていないスミノエの「岸」や「浜」が住吉区あたりに集中的に比定されるのか、合点がいけない。多分に住吉大社の西浜に住吉津があったとの予断が作用し、その延長線上で万葉歌に詠われた「スミノエ」を広義の地域名と捉える視点がみられないように思われる。無論、住吉大社の西浜あたりのラグーンに榎津のような舟泊りまで否定しないが、『記紀』などに記される倭王権の基幹を担うほどの埠頭を設えた大規模な港津はなかったと推断する。

少数例の「スミノエに」型は地名にかか
る歌が二首、住吉神にかかる歌が一首で、
ここでは前者のみをみる。歌一一四九の「住
吉に 行くとふ道に」と長歌一七四〇の「曇

吉に 帰り来りて」は、ともに目的場所を
示すだけで、広義、狭義のいずれかは判断
できず、また具体の住吉津についても云々
できない。

以上の住吉大社西浜に倭王権の直轄港で
ある住吉津はなかったとの結論は、考古学
的にも傍証できるわけだが、いまた万葉
歌の検討でも同様であつた。唯一、「住吉の
御津」と詠んだ歌四二四五は、難波津を発
出する遣唐使船の安全航海を「住吉の我が
大御神」にことさら願ひ奉つた情景からく
る、あらたまつた言い様とみた。そもそも『万
葉集』が編まれた飛鳥時代から奈良時代は、
住吉津はすでに過去の存在であり、万葉歌
人が住吉津の場景を詠むことは現実的に
あり得ない。反面、飛鳥・奈良時代はかつ
ての住吉津の港湾機能を引き継ぎ発展さ
せた国際港、難波津の全盛期に重なる。実
際、万葉歌には天平勝宝二（七五〇）年の
防人の歌一〇四首のなかに、大伴家持の長
歌の「（略）四方の國より 獻る 貢の船は
堀江より 水脈引きしつつ 朝風ぎに 楫
引き沂り 夕潮に 棹さし下る（略）」
四三六〇や「難波津に 御船下すゑ 八十
楫貫き 今は漕ぎぬと 妹に告げこそ」
四三六三など、難波津の具体的な場景や防

人などの心情を詠んだ歌はふんだんにある。

四、住吉津から難波津へ

淀川河口部に造営された倭王権直轄の住吉津は、飛鳥・奈良時代を経て、大きくは平安遷都にいたるまで、物流、外交、軍事の拠点として重要な役割を果たした。国家津としての当初の状況はなかなか判然としないが、王権はその守護神を住吉三神に頼むところが大きかった。「長柄船瀬本記」には河港としておよその範囲が示され、その立地環境や規模について具体的なイメージが描ける。河口に港を整備する理由は『神代記』の「御帛浜等の本縁」にかかる御帛浜の記述で、「三国川尻より吾妻川尻に至る難破（波）浦」とあり、その浜は「三韓の国の朝貢はこの川より運び進る。而るに此の川に漂没れ、仍りて制あり、運漕ばず。吾妻川より運漕ぶ。茲に因りて御帛浜となす。」と説明する。田中卓は、三国川はいまの神崎川で、吾妻川は長柄川もしくは中津川を指すという。要点は三韓の朝貢はもと三国川を利用していたが、（土砂堆積による）沈没事故のため通行不能となり、その後、吾妻川経由で大津に至るというものである。

もとより伝承の域をでないが、図1―①に示した天満砂州の北側が狭くなり、その東側の入海に設営された港津への船の通行が難儀になる状況がうまく描写されている。御帛浜（西淀川区の御幣島は遺称か）は数ある埠頭のひとつだったのだろう。いずれにしても住吉津への航路変更もまた、淀川デルタの発達や土砂堆積による潮口の閉塞化に対する対症療法にすぎず、港の機能維持への抜本的な解決策として、大阪湾に通航するための掘割が喫緊の課題になった。仁徳十一年紀の堀江の開削記事はこの点で整合性があり、関連する茨田堤や茨田屯倉の設営も住吉津整備の一環だったのだろう。一九八七年、堀江のすぐ南側の台地上で大規模な法円坂倉庫群が発見され、倉庫群の設置期間が五世紀の第二から第三「四半期」に絞りこまれるという。注目するのは、朽ちる前に取り壊されていたことで、住吉津の再開発にともなう事象だったと考えられる（図1―②）。

住吉津の整備はその後も引き続き、継体六年紀には迎賓館である難波館の記事があり、欽明二二年紀に難波大郡で百済と新羅の使節を次序したとある。どちらも重要な外交施設であり、このころに住吉津は難

波津と公称されるようになった(図1—③)。飛鳥時代になると難波屯倉が設営され、難波津の埠頭の一層の充実が図られた。後年、住吉郡に属していた上町台地の北端部に西成、東生の両郡が立てられるが、もとは朝鮮語で港のことを表わす「津(ナリ)」が郡名としての「津(ナリ)郡」として成立、のちに埠頭施設の整備がすすむなど、行政機能の多様化とあいまって「西津郡」、「東津郡」に分立したかと思える。

おわりに

神戸市住吉区に本住吉神社が鎮座する。もとは『摂津名所図会』寛政八(一七九六)年にみえる菟原住吉社で、延喜式神名帳には記載がない。社伝では現在の住吉大社も本住吉神社から遷座したとするが、菟原住吉社が実際に古代までさかのぼるのかとなると、明証はない。明治四四(一九一一)年刊行の『西摂大観』には、菟原住吉社の項に「旧知なるを以て本住吉と称す」とあり、多分に近代の学知にもとづく社名変更とみられる。はたして住吉大社は、いつ、どこから現在地に遷座してきたのだろうか。小稿では古代の住吉津について追究して

きた。一つの見通しとして、仁徳天皇が住吉津の充実、発展を期し、陣頭指揮を執るべく高津宮に入ったと考えるに至った。高津の「津」は住吉津とみて過たないので、高津宮は入海から淀川デルタにかけて展開する住吉津を俯瞰できる高台に設けられたと考えられる。候補地をあげるならば天満砂州の付け根にあたる上町台地の北東端の高所、現大阪城の本丸あたりが相応しい。王宮の傍らには、やはり高みから「往来ふ船を看(みそなわ)」すために住吉三神が祀られていたことであろう。後世、住吉神は現在の住吉大社の地に遷座され、いつしか神功皇后とともに奉斎されることになるが、遷座の契機は上町台地北端部の大改造、すなわち孝徳朝ないし聖武朝の難波宮の造営だったと推察する。

参考文献

- ・高木市之助ほか一九五七・一九五九・一九六〇・一九六二『萬葉集』一、四 日本古典文学大系 四、七 岩波書店
- ・梶山彦太郎・市原実一九八六『大阪平野のおいたち』青木書店
- ・田中卓二〇〇八「祝詞「遣唐使時奉幣」について、古来の誤解を正し、難波津の位置と成立時期を確定する」『遣唐使・遣唐使と住吉津』住吉大社編 東方出版
- ・森田克行二〇二三「瀬戸内航路の神々と倭王権―住吉・大山積・宗像―」『沖ノ島研究』第九号「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

住吉大社 防災施設事業について

株式会社大東設計 顧問 池田 博文

はじめに防災事業が行われた経緯をご説明いたします。平成三十一年四月にパリのノートルダム大聖堂の火災、一〇月には首里城の火災が発生しました。文化庁は各々に対応すべく同年四月に「文化財の防火対策等について」を通知、八月に緊急状況調査結果（アンケート調査結果）を公表、九月に「防火対策ガイドライン」を策定しました。首里城火災後の一二月には「世界遺産・国宝等における防火対策五か年計画について」を通知し、同時に消防庁も同様の通知を行いました。そして令和二年度から令和六年度の五か年を対象に世界遺産または国宝（建造物）等のうち防災施設整備が必要なものに対して補助率を加算する制度が整備されました。元号が平成から令和に改元された年でもありました。

住吉大社においては以前にも監視カメラの増設計画がありました。また、コロナ禍のため延期となっていました。今回改めて先に述べた五か年計画に沿って関係者の協力のもと事業を開始する運びとなりました。

文化庁は令和三年一二月に前述の防火対策ガイドラインを反映した「重要文化財（建造物）等防災施設整備事業（防災施設等）指針」を策定しました。それまでは平成八年の改定を最終とする指針をもとに防災施設が整備されていましたが、新指針に基づいた計画が必要となりました。文化財建造物に設置する感知器は部材や意匠への影響の少ない熱で感知する感知器が多く用いられてきましたが、より火災の早期発見が可能な煙や炎を感知する機種が最優先となりました。受信機は区域毎で警戒するP型から個別番号付き感知器の



床下炎感知器

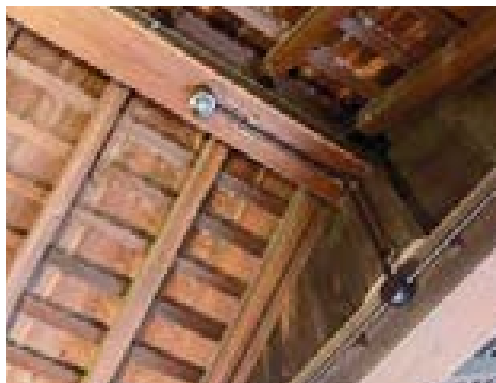
三波長検知の炎感知器と監視カメラ

固有信号を受信して詳細な情報が認識できるR型を推奨している点が警報設備における従前との違いです。

今回の防災事業では自動火災報知設備と防犯設備を更したほか消火ポンプの補修を行いました。自動火災報知設備については社務所にR型受信機を、参集所にR型メッセージ表示機を既存のP型受信機と表示機に替えて設置しました。文化財建造物内にはR型用煙感知器を、軒下に炎感知器を設置して先述の新指針に対応しています。瑞垣等に三波長検知の炎感知器を設置して本殿の檜皮葺屋根も警戒することにより周囲からの延焼被害も覚知することが可能となりました。また見え掛かりのある個所に設置する機器は原則として指定色を施し意匠に配慮しました。防犯設備に関しては既存設備のシステムの更新と機器増設等による機能の拡充を図りました。設備の性格上詳細は省略させていただきますが、防犯センサーと監視カメラを境内全域に配置し状況把握を容易にしました。二四時間録画可能な機器も有し、複数の拠点で管理が可能なシステム



指定色を施し意匠に配慮した、三波長検知の炎感知器



指定色を施し意匠に配慮した、煙感知器



指定色を施し意匠に配慮した、総合盤（発信機・ベル・ランプ）

になっているのが特徴です。消火設備においては防火管理体制に沿った設備がすでに整備されており、今回は経年劣化に伴うポンプの部品交換のみ行いました。しかし協議を進めるなかで以前ポンプ起動に不具合が生じた事を受け、電源部の二重化を計画し副盤（蓄電池切替盤）を追加しました。主ポンプ盤の蓄電池が万が一放電した場合でも副盤に切り替え電源を供給することでポンプが作動しない危険性が低減されました。

補助対象事業費は一億七〇〇〇万円を超え、補助対象外事業費を含めると約二億円を計上する防災事業で全国的にも大規模な防災施設と考えられます。機器の設置は完了しましたが、これから維持管理も大切にしていただければ幸いです。二か年をかけて竣工を迎えることができたのは所有者である住吉大社をはじめ、文化庁、大阪府、大阪市の指導と施工会社のご協力があったることと感謝し、関係者の皆様に御礼を申し上げます。

第三回

住吉の歌枕

堺と住吉大社

摂泉堺郷土史研究所長・元堺市博物館学芸員 吉田 豊

二種の歌枕

歌枕には、本誌前号で調べた吉野・住吉・難波^{なにわ}・春日のような名所地名としての歌枕（狭義）だけでなく、歌語一般、特に吉野山・吉野川・住吉の浜・住吉の松のように名所地名に付属した事物なども歌枕（広義）とされたが、だんだんと名所地名だけをいうようになったらしい（片桐一九九一年）。本号では、広義の歌枕について、万葉集を中心に平安時代までの和歌から見てみたい。

万葉集のスミノエ

万葉集には、仁德天皇や允恭天皇、雄略天皇時代とされる歌も収められているが、これらは後世の仮託であるとする説もある。実質的には舒明天皇（六二九年即位）から編者である大伴家持^{やかもち}による天平宝字三年（七五九）の歌まで、飛鳥・奈良時代二〇〇年弱のうち一三〇年間ほどの間の和歌が収められた歌集である。

ここに収められた和歌の総数は、いろいろな数え方があるが、一九〇一年に出版された旧編の『国歌大観』第一冊・歌集部では計四五一六首とされ、その歌番号がいまでも最も多く使われている。本稿でもこの番号を使うこととするが、その後には研究が進み、現在一般的には計四五三六首とされることが多いようである（中西一九八五年一八頁）。

この中に、スミノエという言葉が含まれる和歌が四〇首ある。このうち和歌本体にスミノエとあるものが三九首であり、前号でも三九首とした。万葉集には和歌本体の他に、その前に題詞（頭注）があったり、本体の後に左注（脚注）があるものがいくつもある。四〇首の残りの一首は、和歌本体にスミノエはないが、この左注にあるものである。これも住吉を詠^よんだ和歌であることが明らかなので、今回は四〇首として分析していきたい。

まずスミノエという言葉であるが、平安時代になってだんだんスミヨシに変わっていくが、万葉集の奈良時代までは総てスミノエであった。和歌本文は万葉仮名で書かれているが、スミノエ表記

には、写本によって多少違うが七種類ある。

最も多いのが住吉で二八首ある。次が墨吉で四首、そして墨江が三首、墨之江が一首である。また、清江が二首あり、その一つが前述の左注のみに書かれているものである。これらは万葉仮名といっても表意文字であり、漢字に近い。

そして最後の第二〇巻に記された二首のスミノエ歌はどちらも大伴家持のもので、「須美乃延」と「須美乃江」というほぼ表音文字である。住吉と書いてスミノエと呼んだことは、ここから分かる。

次に、万葉住吉四〇首に詠まれた歌枕（広義）を見ていくが、このなかには長歌が六首ある。そこには、浦島子や竹取翁も登場するが、たとえばここでの浜や松がすべて住吉地域のものというわけではないし、住吉かどこか分らないものもある。長歌については、このような曖昧さがあることも、ご承知おきいただきたい。



万葉歌碑 住吉大社境内 写真提供、住吉大社社務所
住吉に関する万葉歌17首を記す

住吉の岸の黄土

万葉集に詠まれた住吉の歌枕（広義）には、住吉の岸、岸の黄土・埴布（埴生）、岸の浦、岸の松など、「岸」を詠ったものが多く、一五首に及ぶ。二番目に多い「浜」の八首に比べて倍近い。

岸という漢字は山を含んでおり、また崖にも通じるらしい。「きし」という和名には、語源として切り立った境界といった意味も推定されるらしい。その岸のなかでも、「岸の埴生」は五首あり注目される。

草枕旅行く君と知らませば

崖（岸）の埴布（埴生）ににははさましを

右の一首、清江の娘子、長皇子に進る。

姓氏未だ詳らかならず。〔左注〕

（六九番）

白浪の千重に來寄する住吉の
岸の黄土粉ににほひて行かな

（九三二番）

駒（馬）並めて今日吾が見つる住吉の
岸の黄土を万世に見む

（一一四八番）

この住吉の岸（崖）の黄土は、金子晋氏によって一九七八年に阿倍野区帝塚山一丁目あたりで発見された（金子一九九〇年）。

金子氏によれば、次の歌も住吉あたりの黄土とされる。

白細砂三津の黄土の色に出でて
云はなくのみぞ我が恋ふらくは

（二七二五番）

三津は御津のことともされ、一般的には難波の御津のこととされるが、万葉集には「住吉乃三津」も見える（四二四五番歌）。

住吉の浜

万葉住吉の歌枕として、「岸」の次に多いのが「浜」と「寄」で、八首に詠まれている。まず「浜」から少し見ていこう。

住吉の沖つ白波風吹けば
来寄する浜を見れば清しも

(一一五八番)

住吉の浜に縁(寄)るとふうつせ貝
実なき言もち我恋ひめやも

(二七九七番)

須美乃江の浜松が根の下延へて
わが見る小野の草な刈りそね

(四四五七番)

住吉の浜は、松や波、貝などと一緒に詠まれることが多い。一方で、先にみた岸と一緒に詠まれることはほとんどないようである。

同じ波打ち際でも、岸は陸と海が垂直気味であり、浜は水平気味であり、かなり違う地形のように思われる。

住吉の海岸は、細かい場所の違いは分からないが、垂直・水平両方の地形があったことが万葉住吉からは推定できる。

住吉の寄と波

次に「浜」と同じく八首ある「寄」を見てみたい。万葉仮名としては、表意文字で因・縁・依などと記述された。

五百重浪因す住吉の浜 (長歌、九三一番)

白浪の千重に来縁する住吉の岸 (九三二番)

依り賜はむ磯の崎々荒き浪 (二〇二〇番)

住吉の岸に因するとふ恋忘れ貝 (一一四七番)

沖に辺に縁する白浪 (一一五〇番)

沖つ白浪風吹けば来依する浜 (一一五八番)

縁せ来る浪の音 (一一五九番)

住吉の浜に縁るとふうつせ貝 (二七九七番)

これらはみな、波が浜や岸、磯、松、貝に寄(因・縁・依)って来る情景を表している。

次に「波」であり万葉集には五首あるが、ほぼ「浪」と表記されている。ここには、波が寄せる住吉の浜(九三一番・一一五八番)、波が寄せる住吉の岸(九三二番)、波が沖から寄せてくる墨吉の岸の家(一一五〇番)、住吉の岸の松に寄せ来る波(一一五九番)がある。

これらはすべて、寄せる波という表現であり、前述の「岸」、「浜」とともに、住吉という地域が飛鳥や奈良など主に内陸部に居住する万葉人たちにとって、海岸部にあるという印象が強かったことがうかがえる。

住吉の船と神

万葉住吉で、船が詠まれている歌は六首ある。また、神を詠んだ歌は五首あるが、そのうちの一首は住吉神ではなく皇室の祖先神を詠んだもので四首である。

墨吉の得名津に立ちて見渡せば
武庫の泊りゆ出づる船人

(二八三番)

石上乙麻呂卿、土佐国に配さるる時の歌

大君の命恐み…かけまくもゆゆし恐し

住吉の現(荒)人神船の舳に…

(長歌、一〇二〇・二二二番)

水江の浦島子を詠む一首

春の日の霞める時に墨吉の岸に…

釣船の…墨吉に…

(長歌、一七四〇番)

住吉に齋く祝が神言と

行くとも来とも船は早けむ

(四二四三番)

天平五年、入唐使に贈れる歌一首

そらみつ大和の国…難波に下り住吉の

三津(御津)に船乗り…ゆゆし畏き住吉の

吾が大御神船の舳に領きいまし…

(長歌、四二四五番)

防人の悲別の情を陳ぶる歌一首

大王の任のまにまに…須美乃延の

吾が統神に幣まつり祈り申して

難波津に船を浮け据ゑ…

(長歌、四四〇八番)

住吉神を詠んだ四首には、いずれにも船が詠まれており、住吉神と船との関係が深いことを示す歌が多いことが分かる。

万葉集から平安和歌集へ

『万葉集』全四五三六首(旧編国歌大観番号によれば四五・一六首)のうち地名歌は一七七二首であるから(樋口一九九六年六四二頁)、四割近い歌に地名が詠まれていることになる。そのうち住吉は四〇首であるから、一・二六%である。

九〇五年に完成した古今和歌集を筆頭とする平安時代に詠まれた歌について、その総数を示す確かな数字は見つけられなかったが、四万首以上とされる。『平安和歌歌枕地名索引』によれば、平安時代の歌枕地名全二万数千首(同書あとがきより)であるから、半数ほどに地名が詠まれているということになるのだろうか。このうちで住吉は

万葉集・平安時代和歌集掲載の住吉歌枕順位表【概数※①】

	万葉集 順位	万葉集 数	平安和歌 順位	平安和歌 数	順位 増減	平安 スミノエ	平安 スミヨシ
岸	1位	15	4位	112	減	24	88
浜	2位	8	9位	20	大減	3	17
寄	2位	8	10位	17	大減	8	9
船	4位	6	11位	10	大減	2	8
浪(波)	5位	5	2位	147	大增	53	94
浦	5位	5	8位	42	減	7	35
松	5位	5	1位	354	大增	95	259
神	8位	4	3位	116	大增	16	100
千歳※②	9位	1	6位	92	増	22	70
風	9位	1	5位	94	増	28	66
月		0	7位	49	増	22	27

※① 本表の和歌の数はあくまで概数である。たとえば、万葉集では本文に記した長歌の問題があるし、平安和歌では「まつ」とあっても松、松・待つ(掛詞)、待つのがいずれか分りにくかったり、数が多いため見落としや数え間違いがあると思われる。

※② 万葉集は1148番「万世」。平安和歌には、千世、幾代、年古(経)るなどがある。

計六四九首である。とりあえず全二二五〇〇首として計算すると、二・八八%である。
このように比率的にも平安和歌の方が万葉集よりも住吉の地名入り和歌が少し多いようだが、いずれにしろ実数としても四〇首と六四九首であるから、飛鳥奈良時代が二〇〇年弱、平安時代が四〇〇年弱ではあるが、平安時代の方が住吉和歌が数多く記録され今に残っていることになる。

住吉の松の変化

歌枕順位表で、万葉集と平安和歌集との大きな違いの一つは、「岸」や「浜・寄」が減って「波」・「松」が増えていることであろう。

「波」が増えているのに、万葉集では「波」とセツトに近かった「寄」が大きく減っているのはなぜだろうか。それは、たとえば万葉集の「浜に寄る波」が平安和歌集では「松にかかる波」などになったためであろう。松は海水に強かった。

万葉集にも「浜松」はあったが、だんだんと松だけが詠まれるようになっていった。

平安和歌集に「神」が多いのも、「松」との結びつきによるところがあった。後述の能「高砂」の影響もあるだろうが、住吉神と松の結びつきは江戸時代の住吉神を画いた掛軸などにまで多く描かれており、重要な組み合わせであったことがうかがえる。



和歌三神図のうち住吉神図（部分） 狩野探信画
『特別展住吉さん—住吉大社1800年の歴史と美術—』
（大阪市立美術館編2010年）より

千歳の登場と松

住吉歌枕のなかに、万葉集では「万世」一首しか見られなかったが、千歳・千世・幾代、年古（経）る、久しなどの健康寿命を祝い願う歌が、平安和歌集では登場するようになる。

これらは、松とセツトで詠まれていることが多い。松が常緑であり長命であることと関係するものと思われる。銀杏、榧、楠、杉などの寿命よりも少し短く、特に杉は常緑で長命であったのだが、幹や枝ぶりなどにもよって松が愛でられたのであろう。

松は万葉集のなかで、住吉だけでなく詠まれていた。たとえば磐代（和歌山県）の浜松について、中大兄皇子（後の天智天皇）の従弟だった有馬皇子が六五八年に殺される直前に詠んだ次の歌が、悲哀を誘いよく知られている。

磐代の浜松が枝を引き結び
ま幸くあらばまた還り見む

（万葉集一四一番）

松は、掛詞で「待つ」から待望や別れなどとも結びついて詠われた。

伊勢・古今・高砂の松

伊勢物語一一七段に、住吉の浜松を詠んだ歌がある。

昔、みかど、住吉に行幸し給ひけり
われ見ても久しくなりぬ 住吉の
岸の姫松いく世経ぬらん
おほん神、現形し給ひて
むつまじと君はしらなみ 瑞垣の
久しき世より祝ひそめてき

この姫松の歌と同じ歌は、古今和歌集九〇五番にも記されている。

また、古今和歌集仮名序には、

「やまとうたは…ふじのけぶりによそへて人をこひ松虫のねにとをしのび、たかきごすみの江のまつもあひおひのやうにおぼえ…をみなへのひとときをくねるにもうたをいひてぞなぐさめける」とある。

ここに出てくる「たかきごすみの江のまつ」は、後に世阿弥（一三六三〜一四四三年）による能の名作「高砂」となり、夫婦愛と長寿をテーマにして親しまれてきた高砂・住の江の松である。あらずじは次のようである。

肥後（熊本県）阿蘇宮の神主一行が、京の都見物の途中、播磨（兵庫県）高砂の浦に立ち寄る。そこに老夫婦があらわれる。二人は神主に、この松こそ高砂の松であり、遠い住吉の地にある住の江の松と合わせて「相生の松」と呼ばれていると教える。老夫婦は、自分たちは高砂の姥と住吉の尉であり「相生の松」の化身であると告げると、夕波の汀で海人の小舟に乗り、沖へと姿を消した。

神主一行は、老夫婦の後を追って舟を出し、高砂の浦から住吉へ向かう。住吉に着くと神が

現れ、颯爽と舞い、君民と御代の長寿を寿いだ。

歌枕と住吉神の変遷

本稿では、万葉集から平安和歌集への時代の変化によって、住吉の歌枕（広義）や住吉神がどのようにその役割を果たしていったのか、その一部ではあるが考えてみた。

船の神、海の神であり現人神・荒人神でもあった住吉神は、住吉の松が著名になるとともに、常緑で樹齢が長いとされた松を依り代として、長寿を寿ぎ影向するようにもなった。あるいは、歌枕の地である住吉の神として貴族社会からは和歌の神としても尊崇されることもあった。

それらのことを、詠まれた歌枕（広義）の変化からではあるが明らかにできたと思う。

平安和歌集での新たな要素として、「風」や「月」、「忘れ草」などについても調べたかったが、和歌史を専門としていない筆者にはこのあたりが限界であった。

本稿ではまた、歌枕地名としての「堺」について論じることができなかったが、住吉の歌枕地名である遠里小野などとともに、次回以降で論述したい。

●主な参考文献

片桐洋一監修・ひめまつの会編『平安和歌歌枕地名索引』大学堂書店、一九七二年
片桐洋一「歌枕「住吉」の成立」（『すみのえ』二〇〇号、一九九一年）。
金子晋『よみがえった古代の色―万葉・風土記の黄と赤―』学生社、一九九〇年
中西進編『万葉集事典』講談社文庫、一九八五年
樋口和也『萬葉集地名歌総覧』近代文芸社、一九九六年

岐阜住吉神社

〔鎮座地〕

岐阜県岐阜市高砂町
四丁目五十番二



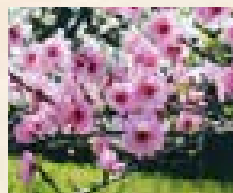
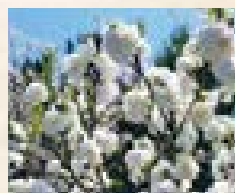
私たちの住吉神社は、清流長良川、常緑樹ツブラジイの葉輝く金華山を見渡す高砂の地にあり、住ノ江、清住、高砂、吉野、幸ノ町の守護神です。当社の創建は、推古天皇の御代（六世紀）と伝えられています。

天保二年の大火により、社殿を始め数多くの古文書・什器を失うことになり、以来小規模ながら当社を再建し、古例に従い祭事を斎行してきました。明治四十五年に氏子の奉仕により、社殿を大幅に改築しましたが、昭和二十年七月に大東亜戦争の空襲により、石造の鳥居・灯籠を除く一切を焼失しましたので、同年十一月に岐阜中教院社殿の譲渡を受け移築し、式典を斎行しました。平成十三年の国道改造事業に伴い、当地高砂の地に遷すことになり、本殿、社務所を新築し現在に至っています。

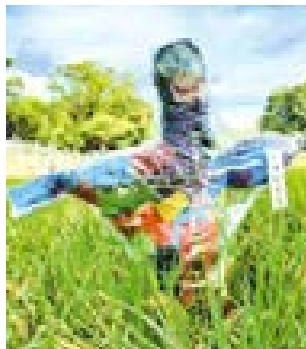
氏子の方々だけでなく、周辺の方々にも多く参拝していただけるよう努めています。現代では、少子化、高齢化が進む中、数多くの問題を抱えています。

住吉大神の御神徳をいただき、氏子、崇敬者の方々と伴に感謝・感動・笑い・祈りの精神を忘れることなく、明るい、穏やかな世を願っています。





令和7年のクエビコ（住吉かかしプロジェクト）



令和7年
10月5日

住吉大社宝之市神事奉納 学生招待相撲大会

第86回近畿高等学校、第10回大阪府中学生、第3回大阪府小学生 招待相撲大会

主催：住吉大社 主管：大阪府相撲連盟 協力：西野建設工業株式会社



高校生団体優勝 箕島高校A（和歌山県）



小学五年生 個人決勝



高校生 個人決勝



高校生個人優勝
長島吏夢氏（箕島高校）

【高校生の部】
団体優勝：箕島高校A（和歌山県）
個人優勝：長島吏夢氏（箕島高校）
【中学生の部】
優勝：森田渉太氏（大東）
【小学生の部】
四年生優勝：亀井幸盛氏（創志道）
五年生優勝：片桐叶樹氏（大東）
六年生優勝：植田慎八氏（間口）



社務日誌抄

(令和七年五月から一〇月分まで)

令和七年(二〇二五)

五月

一日

朝日祭・全国弓道大会奉告祭、神武宮司以下奉仕。第七四回住吉大社全国弓道大会(住吉大社全国弓道大会実行委員会・大阪府弓道連盟主催)〔公財〕全日本弓道連盟・大阪府・毎日新聞社・全日本弓道連盟近畿地域連合会(公財)住吉名勝保存会後援)・弓馬術礼法小笠原教場第三二世宗家小笠原清忠氏(公財)全日本弓道連盟会長 加藤出氏以下参列。暮目奉射・小笠原清忠氏以下奉仕。〔団体優勝〕(女子)岡山県・田中照子・田辺蘭・赤澤和子(男子)長野県・蟹澤契太・蟹澤史弥・小山謙太郎。〔個人優勝〕(女子)坂東瑞季(男子)大石幸司。卯の花苑、開園(三一日迄)。NHKラジオ第一放送「関西ラジオワイド」取材。

五日

すみよし博覧会(こどもdeすみ博)(五月殿・御田)。

六日

神道青年会理事会、附柴 西角権禰宜出席。

七日

卯之葉神事舞楽習礼。神道青年会定時総会、附柴 西角権禰宜出席。

八日

大阪・関西万博「大阪ウィーク春の陣」住吉大社大神輿会場搬入(於EXPOアリーナ)神輿会・アチハ(株)他関係者、加藤権宮司・小出禰宜・神武 河野権禰宜奉仕。(学)浪速学院理事会評議員会・新校舎中学校棟「竣工記念祝賀会」、神武宮司出席。大阪・関西万博「大阪ウィーク春の陣」敬宮愛子内親王殿下会場御視察に際し奉迎、住吉大社大神輿展示、神武宮司・小出禰宜・神武 武田 河野権禰宜参加。NHK「ウィークエンド関西」取材。

九日

卯之葉神事、神武宮司以下奉仕、責任役員 小島康秀氏以下参列。奉納舞楽「振鈴・承和衆・納曾利・甘州・長慶子」天王寺築所雅亮会楽監 藤原恵氏以下、献茶・住吉大社茶道部 宮浦宗正氏以下、献香・香道閑院流家元 福井北勝洞氏以下、奉納能「翁面掛之式」他 すみよし反橋能実行委員会委員長 氏田耕吉氏以下各奉仕。市戎大國社月次祭、加藤権宮司以下奉仕。

一〇日

大阪・関西万博「大阪ウィーク春の陣」住吉大社大神輿・住吉踊、御祝講獅子実演、関係者約三〇〇名、岡権宮司、万力禰宜、河野 小山手権禰宜参加。(深夜)住吉大社大神輿会場搬出、神輿会・アチハ(株)他関係者、小出禰宜・武田権禰宜奉仕(翌朝迄)。

二日

初辰大祭・楠垣社例祭、岡権宮司以下奉仕。

二日

住吉大社セミナー「倭王権と住吉津―摂津の意味を考える―」高槻市文化財アドバイザー 森田克行氏講演。十日会 水無瀬神宮 神武宮司出席、高階禰宜随行。吉祥殿「住吉ヨガ」催行(神館)。

三日

大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。

一四日

住吉祭後援会正副会長会、神武宮司、加藤 岡権宮司以下出席。

十五日

十五日祭、神武宮司以下奉仕。御文庫献本奉告祭並住吉大社御文庫大阪府有形文化財指定奉告祭、日本書籍出版協会大阪支部支部長 岡本功氏・大阪出版協合理事長 矢部敬一氏・大阪書林御文庫講元 藤波優氏以下一五名参拝。御田講会合、神武宮司・高階禰宜出席。大阪・関西万博結婚式協力御礼挨拶、日本ブライダル文化振興協会・神社結婚式場会・東京都府中市大國魂神社他、岡権宮司訪問(翌日迄)。

一六日

三重県名張市宇流富志禰神社宮司 中森孝榮氏以下四〇名参拝。

一七日

新宮社例祭、川畑禰宜以下奉仕。浅澤社例祭、万力禰宜以下奉仕。

一八日

大阪・関西万博「港まちづくりDAY」(港まちづくり協議会主催、於ブルーオーシャンードーム)、加藤権宮司講師。(一財)住吉村常盤会定時評議会、小出禰宜出席。

一九日

(株)伊藤園、飲料奉納。奈良シニア大学現地見学会、小出禰宜講師。

二〇日

海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。大阪護國神社春季例大祭及臨時奉幣祭、武田権禰宜参列。慶應義塾大学大学院教授 神武彦彦氏以下五名参拝。

二一日

神社本庁表彰式・同祝賀会明治記念館、岡権宮司出席、高階禰宜随行。館友会会合(乃木神社)、加藤 岡権宮司・高階禰宜出席。大阪府高齢者大学校講座、小出禰宜講師。NHK「美の壺」他取材、神武宮司応対。

二二日

青葉会総会(明治記念館)神武宮司・加藤 岡権宮司出席、小山手権禰宜随行。伝統文化未来共創プロジェクト会議、高階禰宜・武田 河野権禰宜出席。

二三日

御文庫曝書、日本書籍出版協会大阪支部・大阪出版協会・大阪書林御文庫講有志奉仕。住吉自衛消防協議会総会、高階禰宜・倉智権禰宜出席。

二四日

安立地区三親会総会、神武宮司・加藤 岡権宮司・小出禰宜・神武 武田権禰宜出席。BS団総会、神武宮司・加藤権宮司・福山 西角権禰宜出席。

二五日

御田植神事粉黛戴盃式習礼、若柳吉翔氏以下御稔女・植女、岡権宮司・万力禰宜以下奉仕。大阪府氏子青年協議会総会、岡権宮司出席。すみよし反橋能反省会、小出禰宜出席。

二六日

中堅神職研修(神宮道場)河野権禰宜参加(三〇日迄)。

二七日

住吉大社会計監査会、責任役員監事 山中諄氏・小島康秀氏、専任会計士 山下由美子氏・丸橋隆宏氏、神武宮司以下出席。

二八日

浅澤社月詣、高階禰宜奉仕。(学)浪速学院理事会評議員会、神武宮司出席。住吉区政一〇〇周年区民まつり協力依頼、住吉区長 橘隆義氏来社。幸福門・幸寿門ミストシャワー設置工事。

二九日

献茶式、表千家 左海大宗匠以下奉仕。真言律宗総本山西大寺

三〇日

管長 松村隆督氏来社、宮司応接。
表千家不審菴・半床庵（献茶式御礼 高階禰宜・小山手権禰宜訪問。神社庁第九支部役員会、岡権宮司・進藤 西角権禰宜出席。住吉踊保存後援会支部長会、山下 滝沢 附柴 小山手権禰宜出席。
三二日
定例清掃、職員会議。東粉浜幼稚園運動会、岡権宮司参加。新規採用者セミナー、附柴権禰宜・吉田神人・川上 芝 田原 神楽女出席。

六月

一日

朔日祭、神武宮司以下奉仕。貴船社例祭、倉智権禰宜以下奉仕。粉浜まつり、武田権禰宜参加。同ウォークラリー境内使用。
二日
責任役員会・常任総代会・総代会、責任役員 山中詢氏・小島 康秀氏以下二名、常任総代 北村英一郎氏以下七名、総代 古武一成氏以下二名、神武宮司以下出席。

三日

卯之日祭、加藤権宮司以下奉仕。神功皇后正辰祭 狭城盾列池上陵、神武宮司以下職員七〇名参列。春日大社参拝。大阪・関西万博「伝統文化未来共創プロジェクト」オープニングレセプション（於 EXPO ホール シヤインハット）岡権宮司・高階禰宜・武田 河野権禰宜出席。

四日

初辰祭、岡権宮司以下奉仕。イタリア共和国建国記念日レセプション、神武宮司出席、小山手権禰宜随行。神社結婚式場会勉強会（東京都千代田区神田神社）岡権宮司講師。

五日

三稜中学校職場体験学習一〇名受入（翌日迄）。天下茶屋小学校写生会境内使用。

六日

神社庁榮譽委員会、加藤権宮司出席。神社庁役員会、岡権宮司出席。大阪市東成区八王子神社宮司 友田教之氏以下三名参拝。

七日

車いす de 住吉大社参拝プロジェクト代表 黒田健氏以下九〇名参拝。館友会大阪府支部総会、加藤権宮司以下五名出席。放送大学大阪学習センター講座、小出禰宜講師。東粉浜小学校運動会、河野権禰宜参加。大阪・関西万博 ORA 外食パビリオン主催「日本食 Wonder Trip」世界に誇る日本食魅力発見の旅」当社御田植神事映像出演。

八日

第一三回住吉大社浪曲寄席 住吉武道館 京山幸枝若氏・天光 軒新月氏・京山幸太氏出演、加藤権宮司参加。大阪・関西万博 特定非営利活動法人ゼリ ジャパン・サラヤ（株）主催企画成功祈願祭（於 ブルーオーシャンドーム）加藤権宮司以下奉仕、神武宮司参列。すみよし反橋能実行委員会会議、小出禰宜出席。御祓講獅子会議、万力禰宜・西角権禰宜出席。

九日

神功皇后御陵参拝（第二班 岡権宮司以下職員六八名参拝、春日大社参拝。住吉大社セミナー「住吉大社と源氏物語」住吉の神の導き―三元中京大学教授「高道子氏講演。アチハ（株）大阪・関西万博・大阪ウィーク」協力御礼。神武宮司以下訪問。

一〇日

市戎大國社月次祭、岡権宮司以下奉仕。

一一日

草薙会近畿支部総会、万力禰宜・附柴権禰宜出席（翌日迄）。

一二日

神社庁教養研修会、岡権宮司出席。神道青年会理事会、西角 権禰宜出席。

一三日

大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。御田植神事習礼。御田代嬢、

一四日

御田講奉仕。十日会（大鳥大社）神武宮司出席。東洋きもの専門学校境内撮影。

御田植神事（重要無形民俗文化財）、神武宮司以下奉仕。御田植神事保存会・御田講 講元 濱田孝氏・住吉踊保存後援会（会長 久保道伸氏・武者行事保存会（会長 角家元二氏・田植踊保存会（代表 西山経代氏）・大阪供奴保存会（会長 出野進氏・植女御秘女世話人代表 若柳吉翔氏・稚児世話人 小西國子氏・協力 帝塚山学院幼稚園）・住吉大社奏楽部世話人 高橋 昭人氏）等各奉仕。（二財）住吉村常盤会（公財）関西大阪二一世紀協会、各助成。

一五日

十五日祭、神武宮司以下奉仕。八所社例祭、逸見権禰宜以下奉仕。

一七日

日本プライダル文化振興協会総会、岡権宮司出席。住吉商業高等学校生徒取材受入。

一八日

十八日会（当社開催）長田神社・檀原神宮・大阪天満宮・平安 神宮・生田神社・湊川神社・多賀大社・大神神社・八坂神社・北野天満宮・賀茂御祖神社・賀茂別雷神神社・春日大社各宮司参拝、精清興・文楽三番叟 桐竹勘十郎氏（人間国宝）。

一九日

国庫補助事業住吉大社防災設備更新工事竣工奉告祭並翼廊北新授与所竣工奉告祭、川畑禰宜以下奉仕、神武宮司・大阪府文化財保護課 神谷悠美氏 萩原安寿氏・大阪市文化財保護課 櫻井久之氏・（株）大東設計 田原文氏・能美防災（株）関西支社文化財防災室 馬場貴志氏他（有）種村強建築設計 種村強氏・（株）滝川寺社建築 滝川悟氏他計一二名参列。住吉踊保存後援会支部長会、山下 滝沢 附柴 小山手権禰宜出席。

二〇日

海上交通安全祈願祭、高階禰宜以下奉仕。大阪市連合防火管理協会総会、岡権宮司出席。館友会常務理事会、加藤権宮司出席。

二二日

宿院頓宮崇敬会大祭・総会、岡権宮司出席。

二二日

第七代横綱豊昇龍昇進披露宴（ザ・プリンスタワー東京）神武宮司、武田権禰宜、石橋主事出席。物部守屋公墓前祭、岡権宮司参列。

二三日

近畿地区中堅神職研修（兵庫県 滝沢 進藤 福山 中川権禰宜参加（二七日迄）。

二四日

皆田美佐子氏（神馬舎人の橘家子孫）来社奉賛。

二五日

（公財）大阪府文化財センター評議員会、神武宮司出席、小山手権禰宜随行。戦後八〇年戦歿者慰霊祭・特別講演（皇學館 大学）加藤権宮司出席。シニア自然大学校講座、小出禰宜講師。住吉祭関係者会議、神武宮司以下出席。神社庁班斂式 役員会、岡権宮司出席。

二七日

新規採用者選考。神社庁総務調整委員会、岡権宮司出席。アチハ（株）会長 阿知波毅氏 来社奉賛。

二八日

浅澤杜月詣、高階禰宜奉仕。院友会大阪支部総会、宮崎権禰宜出席。御田に生息するプランクトンに関する調査、大阪市立自然史博物館 長谷川匡弘氏来社。

二九日

水天宮前宮司 故有馬頼央氏お別れの会（ロイヤルパークホテル）加藤権宮司参列。

三〇日

大破、神武宮司以下奉仕、一般参列者約四〇〇名。定例清掃。職員会議。

七月

- 一日 朔日祭、神武宮司以下奉仕。
 二日 墨江丘中学校職場体験学習五名受入(翌日迄)。
 三日 名古屋市中区愛知縣護國神社宮司 笠井剛氏以下七名参拝(第一班)。
 四日 春日大社特別展「究極の国宝 大鎧展」内覧会、神武權禰宜出席。宮司以下参籠。
 五日 天皇皇后両陛下蒙古国御渡航行幸啓安泰祈願祭、神武宮司以下奉仕。吉祥殿(住吉七夕まつり)(神館)催行(七日迄)。
 六日 夏越祓神事粉黛戴盃式習礼。
 七日 星宮例祭、万力禰宜以下奉仕。住吉大社セミナー「外交の祖神」が拓く令和日本の新航路(皇學館大学現代日本社会学部准教授 村上政俊氏講演。住吉祭御神酒講献酒打合会、加藤權宮司・中野禰宜・附柴權禰宜出席。BS団行、肝試し境内使用。神社庁第九支部会議、岡權宮司・進藤 西角權禰宜出席。新人歓迎会並万博催事慰労会、加藤權宮司以下出席。
 八日 卯之日祭、加藤權宮司以下奉仕。社報「住吉っさん」第四号本日付発行。
 九日 初辰祭、加藤權宮司以下奉仕。市戎大国社月次祭、岡權宮司以下奉仕。名古屋市中区愛知縣護國神社禰宜 鈴木崇友樹氏以下五名参拝(第二班)。
 一〇日 館友会山口県支部総会、加藤權宮司出席。
 一一日 大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。住吉斎女宣状式、藤田苗月氏委嘱。NHK番組「小さな旅」すみよっさんとともに、大阪府住吉大社へ放送、御田講講元 濱田孝氏・住吉踊教導師 田中玲子氏出演。
 一二日 港住吉神社宵宮祭、加藤權宮司以下奉仕。(株)伊藤園、飲料奉納。宮司以下参籠。
 一三日 天皇皇后両陛下蒙古国御渡航還幸啓奉告祭・十五日祭、神武宮司以下奉仕。港住吉神社例祭、加藤權宮司以下奉仕、神武宮司以下参列。住吉商業高等学校インターンシップ五名受入(翌日迄)。
 一四日 中堅神職研修(神宮道場)中野禰宜参加(二〇日迄)。
 一五日 大阪船主会海上安全祈願祭、神武宮司以下奉仕、同会長 安藤美和子氏・近畿運輸局局長 小澤康彦氏・大阪海上保安監部監部長 宮本勝通氏・近畿海事広報協会会長 星野公彦氏以下参列。高砂神社夏祭、古澤 田原神楽女助勢。
 一六日 十八日会(平安神宮)神武宮司出席、高階禰宜随行。商船三井ミュージアム「ふねしる」オープニングセレモニー、加藤權宮司出席、小山手權禰宜随行。帝塚山学院高等学校ダンス部、三大大会出場祈願祭(※第三七回全日本高校ダンスフェスティバルNHK賞、第一八回日本高校ダンス部選手権全国大会ビッグクラス準優勝、第一三回全国高等学校ダンス部選手権優勝)。
 一七日 BS団行、肝試し境内使用。
 一八日 海上交通安全祈願祭、加藤權宮司以下奉仕。
 一九日 神輿洗神事、加藤權宮司以下奉仕。神武宮司・住吉区長 橋隆義氏・住之江区長 藤井秀明氏(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏以下参列。住吉漁業協同組合・住吉神輿会・住吉踊・

御祓講獅子・大阪供奴保存会・住吉祭太鼓会奉仕。斯主社例祭、川畑禰宜以下奉仕。吉祥殿「神館納涼お食事会」(二・二五・二六日)。
 二二日 神社結婚式振興会研修懇談会(東京都港区日枝神社)、基調講演「万博奉式と住吉大社の取り組み」岡權宮司講師。浪速高等学校修養学舎視行事、万力禰宜講師(二四日迄)。
 二三日 相撲大会抽選会、高階禰宜以下立会。近畿地区護國神社會研修会幹事 藤江正鎮氏(大阪護國神社宮司)以下一名参拝。NHKラジオ第一「関西ラジオワイド」収録、小出禰宜出演。
 二四日 御神酒講 献酒奉告祭。
 二六日 花神輿・子供神輿・太鼓台境内巡行。神宮研修所神社実習受入(八月四日迄)。
 二七日 住吉祭 渡御祭神幸之儀、神武宮司以下奉仕。住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下役員・供奉員、神輿等與丁奉仕。堺市市長 永藤英機氏・宿院頓宮総代長 島野容三氏以下頓宮祭参列。宿院頓宮鳳輦奉安(八月一日迄)。
 二八日 ※当年より熱中症対策等奉仕者への安全配慮・與丁等奉仕者確保の為、神輿渡御を従前の八月一日より七月最終日曜日に日程変更し、開始時刻を遅らす。
 二九日 八坂神社三若神輿会 近藤浩史氏以下来社、「おまつりニッポン」(住吉祭・神輿)取材。
 三〇日 浅澤社月詣、高階禰宜奉仕。阪急阪神ホールディングス(株)前CEO 故角和夫氏お別れの会、岡權宮司参列。TBSテレビ「せっかくグルメ」取材。
 三一日 海上保安友の会大阪支部役員会、神武宮司出席、高階禰宜随行。住吉祭宵宮祭、神武宮司以下奉仕。山蔭流庖丁式奉納。定例清掃。職員会議。宮司以下参籠。
 二日 例大祭・夏越祓神事(府無形民俗文化財記録選択 神武宮司以下奉仕。責任役員 小島康秀氏以下役員、熱田神宮名譽宮司(学)法皇學館理事長 小島和夫氏以下来賓・地区代表者・夏越女保存会・神輿会他奉仕者約二〇〇名参列、一般約千名参拝。枕太鼓瑞垣内巡行。うどんや風一夜葉本舗来社奉賛。堺大魚夜市 献魚奉告祭、同実行委員長 松村義孝氏以下参拝。

八月

- 一日 住吉祭 献花式、平野坂上七名家当屋土橋保樹氏奉仕。朔日祭、神武宮司以下奉仕。頓宮祭・飯匙堀祓神事(堺市指定無形民俗文化財)、神武宮司以下・斎女 藤田苗月氏奉仕。堺市市長 永藤英機氏・宿院頓宮総代長 島野容三氏・住吉祭後援会会長 中野紀久雄氏以下参列。住吉祭 渡御祭還幸之儀、鳳輦還興。卯之日祭、加藤權宮司以下奉仕。人形流、進藤權禰宜以下、堺市出島漁業協同組合奉仕。念法真教一〇〇周年報恩大法、神武宮司参列、小山手權禰宜随行。
 二日 初辰祭、加藤權宮司以下奉仕。
 三日 住吉・住之江警察署(住吉祭御礼)加藤權宮司・武田權禰宜訪問。東住吉高等学校インターンシップ五名受入。
 四日 堺警察署(住吉祭御礼)加藤權宮司・武田權禰宜訪問。泉大津高等学校他インターンシップ四名受入。
 五日 御文庫圖書調査、佛敎大学教授 土佐朋子氏閲覧。
 六日

七日

薄墨社例祭、小出禰宜以下奉仕。社会体験研修、住吉中学校教員一名受入(翌日迄)。大阪国学院スクーリング、祭式助教岡権宮司(及八・九・二二・二二・二八日)、稗録成助教 万力禰宜助勢(及九・二二・二二・二八・三〇日)。

八日

皇學館評議員会、加藤権宮司出席。

九日

吉祥殿(住吉大社鉄道フェア)催行(一四日迄)。市戎大国社月次祭、逸見権禰宜以下奉仕。安立神興会反省会、神武宮司・加藤 岡権宮司・小出禰宜以下出席。港住吉神社反省会、加藤権宮司・名村権禰宜出席。

二日

大阪府神道人親善大会、岡権宮司・西角権禰宜・大久保古澤神楽女参加。

三日

大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。大鳥大社例祭、岡権宮司参列。初任神職研修、吉田神人参加(及二四・二六・二七日)。神楽殿・祈禱殿他音響設備工事(翌日迄)。

五日

十五日祭、神武宮司以下奉仕。大阪護國神社終戦詔書拝戴の日祭、加藤権宮司参列。

七日

神宮研修会、小山手・古館権禰宜参加。

二〇日

海上交通安全祈願祭、岡権宮司以下奉仕。東希美欄奈氏来社奉賛。神社本庁辞令・山下 宮寄権禰宜、神職身分二級昇級。全国一の宮会総会(賀茂御祖神社、神武宮司出席、高階禰宜随行。労務管理研修会、奥野権禰宜出席。

二二日

西南学院大学非常勤講師 吉田扶希子氏来社、神武宮司・小出禰宜応接。升の市実行委員会打合せ、万力禰宜応接。

二四日

館友会全国大会(岡山市)神武宮司・加藤権宮司・高階禰宜・小山手・古館権禰宜出席。BS団写生会境内使用。

二五

館友会全国大会オプショナルツアー、加藤権宮司参加。

二六

皇學館大学階位検定講習会、神武権禰宜講師(翌日迄)。

二八

浅澤社月詣、高階禰宜奉仕。教養研修会、高階 小出禰宜・武田権禰宜以下参加。

三〇

書道家信貴玉聖氏奉納揮毫。

三二

定例清掃。職員会議。大阪・関西万博アメリカ館ユースアンバサダー他一五名参拝。住吉踊保存後援会支部長 幹事会、山下 滝沢 附柴 小山手権禰宜出席。

九月

一日

朔日祭、神武宮司以下奉仕。樺社例祭、川畑禰宜以下奉仕。

二日

東京都府中市大國魂神社権宮司 猿渡惇氏以下一五名参拝(第一班)。関西イノベーションシンククロスフォーラム、高階禰宜・宮寄権禰宜出席。神職身分二級証書授与式、山下 宮寄権禰宜出席。

四日

近畿の式内社を顕彰する会会長 片岡秀和氏(多賀大社宮司)以下三五社四〇名参拝。同総会・講演会(皇學館大学名誉教諭 櫻井治男氏講師)(吉祥殿)神武宮司・高階 小出禰宜・小山手権禰宜出席。草薙会結成七〇周年記念大会、万力禰宜・附柴権禰宜出席。大領中学校職場体験学習九名受入(翌日迄)。玉島テレビ放送取材。

六日

献詠短歌選者会、選者 佐沢邦子氏 安田純生氏 香川ヒサ氏 選考。(公財)住吉名勝保存会理事長 高野伸生氏・住吉武道館館長

七日

東郷信行氏来社、神武宮司・加藤 岡権宮司・高階禰宜応接。BS団会議、中野禰宜・福山権禰宜出席。BS団保護者会境内使用。住吉大社前郵便局清掃奉仕。

八日

卯之日祭、岡権宮司以下奉仕。清風南海中学校生徒取材受入。初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。南海電気鉄道(株)家族にえがお+1プロジェクト境内撮影。

九日

志賀神社例祭、川畑禰宜以下奉仕。東京都府中市大國魂神社宮司 猿渡昌盛氏以下一五名参拝(第二班)。大阪・関西万博「招き猫プロジェクト」成功祈願祭(於ブルオーシャンドーム)加藤権宮司以下奉仕。皇學館大学階位検定講習会、神武権禰宜講師(翌日迄)。

一〇日

市戎大国社月次祭、岡権宮司以下奉仕。神社本庁辞令・岡権宮司・神職身分二級上昇級。

二日

近畿地区女子神職研修会、大阪府神社庁副庁長 原充昭氏・全国女子神職協議会会長 福山泰恵氏・大阪府婦人神職の会会長 西野志都子氏以下七〇名参拝、岡権宮司・小出禰宜講師。神社関係者懇談会(三重県鳥羽市)神武宮司・高階禰宜・河野権禰宜出席。南港北中学校職場体験学習六名受入(翌日迄)。

二二

献詠俳句選者会、選者 古賀しづる氏 森田純一郎氏 小杉伸一路氏選考。

二三日

大海神社月次祭、小出禰宜奉仕。乃木神社例祭、加藤権宮司参列。住吉歴史ボランティアガイド入門講座、小出禰宜講師。

二五

神楽女他新規採用者説明会。

二六

十五日祭、加藤権宮司以下奉仕。神S協理事役員会、中野禰宜・山下権禰宜出席。御祓講獅子、東粉浜歌老大会出演。

二七

日本相撲協会横綱手数入奉納挨拶、岡権宮司・武田権禰宜訪問。住吉中学校職場体験学習四名受入(翌日迄)。神道青年会理事會、附柴 西角権禰宜出席。

二八

十八日会(八坂神社)神武宮司出席、高階禰宜随行。

二九

児安社例祭、逸見権禰宜以下奉仕。十日会(生國魂神社)神武宮司出席、小山手権禰宜随行。神社庁祖霊殿秋季合祀祭助祭員、岡権宮司奉仕。

二〇

海上交通安全祈願祭、加藤権宮司以下奉仕。神社庁祖霊殿秋季慰霊祭助祭員、岡権宮司奉仕。東希美欄奈氏来社奉賛。

二二

御祓講獅子会議、万力禰宜・西角 古館権禰宜出席。(二社)国際事業家協会平和まつり境内使用。

二二

住吉大社セミナー「幕末ペリーの黒船の知られざる真実の物語」武庫川女子大学名誉教授 丸山健夫氏講演。神社庁神宮大麻層頒布始奉告祭、岡権宮司参列。

二四

皇靈祭遙拝、神武宮司以下奉仕。招魂社秋季例祭、岡権宮司以下奉仕、神武宮司以下一六名参列。神馬塚参拝、神武宮司・加藤 岡権宮司参拝、倉智 奥野権禰宜随行。大石早苗氏来社奉賛。

二五

(学)浪速学院理事会評議員会、神武宮司出席。住吉警察署教養研修、岡権宮司講師(二六日迄)。すみよし反橋能実行委員会会議、小出禰宜出席。

二六

神楽女・事務職員採用選考。中堅神職研修(神宮道場)河野権禰宜参加(二九日迄)。住吉警察署協議会、武田権禰宜出席。すみよし区民まつり神輿・住吉踊・獅子舞出演打合せ、山下権禰宜出席。

二六日 終戦八〇年神仏合同慰霊祭、加藤権宮司参列、岡権宮司・進藤西角権禰宜助勢。

二七日 (例)カメラのキタムラ写真教室境内使用。

二八日 浅澤杜月詣、高階禰宜奉仕。日本吟道奉賛会大阪地方本部八〇名参拝、吟詠吟舞奉納。大阪供奴保存会境内使用。

二九日 神職身分二級上証書授与式、岡権宮司出席。

三〇日 定例清掃。職員会議。宿院頓宮夏祭会計報告会、岡権宮司出席。

一〇月

一日 朔日祭・卯之日祭、神武宮司以下奉仕。陸上自衛隊信太山駐屯地住吉祭(御礼)加藤権宮司・古布権禰宜訪問。

二日 初辰祭、加藤権宮司以下奉仕。生間流式庖丁奉納式、川畑禰宜以下、生間流三〇代家元 小西正保氏以下奉仕。神社庁役員会、岡権宮司出席。

三日 十日会(阿倍野神社)神武宮司出席。

四日 MINATO天保山まつり、加藤権宮司出席。大阪国学院スクーリング、祭式助教 岡権宮司、禊錬成助教 万力禰宜助勢及七日。BS団会議、福山権禰宜出席。観月祭舞樂習礼。

五日 住吉大社宝之市神事奉納学生招待相撲大会(第八六回近畿高等学校、第一〇回大阪府中学生、第三回大阪府小学生招待相撲大会)【高校生】団体優勝・箕島高校A、個人優勝・長島吏夢(箕島高校)【中学生】優勝・森田渉太(大東)【小学生】四年生優勝・亀井幸盛(創志道)、五年生優勝・片桐叶樹(大東)、六年生優勝・楠田慎八(間口)。住吉幼稚園運動会、武田権禰宜参加。

六日 観月祭(産経新聞社後援・末廣堂協賛)神武宮司以下奉仕、各奉仕団体・献詠選者・入選者・住之江区長 藤井秀明氏・産経新聞大阪本社 北村昭宏氏以下参列。天王寺楽所雅亮会・住吉踊保存後援会・住吉大社茶道部・選者佐伏邦子氏各奉仕。短歌・天位五十年母の守りて来し畑にこよひ祭菜と秋の月照る。安田溪子氏、地位「負はれぬし子猿はどこに眠りぬむ背中割がれし埴輪の母猿」梶田有紀子氏、人位「漆黒の溜沢カールに寝ころびて今日の月みて明日から縦走」赤澤皆氏。俳句・天位言の葉の玉なす月の祭かな「柏木由美子氏、地位」ゆつくりと墨すり月を待ちにけり「平田冬か氏、人位」発句のある国に生れて今日の月「奥野とほる氏。奉納舞樂・振鉦・桃李花・仁和楽・長慶子」。

八日 南・北駐車場等整備・舗装工事着工(二四日迄)。

九日 大歳社例祭、中野禰宜以下奉仕。神社庁関係者大会実行委員会、岡権宮司出席。住吉区制一〇〇周年記念すみよし区民まつり神輿出演打合せ、小出禰宜・鈴木権禰宜出席。大阪眼鏡商工連合会会長 河合晃弘氏・めがねの碑維持管理委員会委員 長岡高みどり氏以下八名定例祈願参拝。

一〇日 市戎大国社月次祭、加藤権宮司以下奉仕。愛知県大山市大縣神社例祭、神武宮司参列、高階禰宜随行。

一二日 生根神社神輿渡御境内使用。

二二日 大海神社例祭、加藤権宮司以下奉仕。神武宮司・大海協議会・大海神社龍宮講各参列。大海神社社幕、大海協議会・大阪市漁業協同組合・大阪市漁協(例)奉納。

三〇日

一四日 大海協議会会長 故北村泰規氏告別式、神武宮司・武田権禰宜弔問。

一五日 十五日祭、神武宮司以下奉仕。おいとしぼし社秋季例祭、高階禰宜以下奉仕。第一本宮賽銭箱二基奉納。

一六日 龍社例祭、高階禰宜以下奉仕。小南富美子氏来社奉賛。

一七日 神宮神嘗祭選擇、御田刈式、宝之市神事、神武宮司以下、御田講・濱田孝氏・般若雄史氏、升の市実行委員会世話人代表 澤田秀一氏各奉仕。升の市催行(給馬殿)。港住吉神社氏子総代会参拝旅行(兵庫県高砂市高砂神社)加藤権宮司・名村権禰宜同行。市戎大国講打合せ、川畑禰宜・逸見 附柴 西角 奥野権禰宜以下出席。

一八日 第一九回升の市住吉寄席、桂米團治氏・桂米二氏・桂すずめ氏・桂弥つこ氏登壇。靖國神社秋季例大祭、加藤権宮司参列。すみよし博覧会奉納芸能、境内使用。(一財)住吉村常盤海村中安全祈願祭、川畑禰宜参列。

一九日 后土社例祭、川畑禰宜以下奉仕。御祓講獅子催事、境内使用。地活協東粉浜行事境内使用。

二〇日 海上交通安全祈願祭、高階禰宜以下奉仕。住吉大社セミナー「古典落語に笑ひ学ぶ」日本史・大阪天満宮文化研究所所長 高島幸次氏講演。大阪護國神社終戦八〇年臨時奉納大祭、岡権宮司・武田権禰宜参列。フィンランド「On the Right Track」テレビ撮影。

二二日 船玉神社例祭、逸見権禰宜以下奉仕、神武宮司・(例)商船三井 富山茂氏参列。東京都港区赤坂氷川神社宮司 恵川義昭氏来社、神武宮司応接。

二三日 ロータークラブ例会、加藤権宮司出席。住吉公園歴史探望編集会議、小出禰宜出席。八所社屋根応急修理工事。

二四日 大阪府神社庁前庁長 藤江正謹氏(杭全神社宮司)来社、神武宮司応接。皇學館中学校研修旅行、教頭 山形達哉氏以下二六名参拝。住之江中学校職場体験学習六名受入翌日迄。院友神職支部総会、岡権宮司・宮寄権禰宜出席。

二五日 「正倉院展」内覧会、神武宮司出席、小山手権禰宜随行。

二六日 住吉区制一〇〇周年記念すみよし区民まつり、中神輿展示・実演、住吉踊・御祓講獅子出演、東粉浜神輿会他関係者奉仕、小出禰宜・山下 鈴木 小山手権禰宜立合。生田神社宮司 木田孝明氏就任挨拶来社、神武宮司・加藤 岡権宮司応接。

二七日 西角権禰宜結婚披露宴、神武宮司以下出席。南港光小学校運動会、武田権禰宜参加。

二八日 御田稻刈、御田講奉仕。サントリイ美術館石灯籠「玉栄講」3D計測調査、学芸員 林佳美氏・奈良県立大学教授 山田修氏来社。御文庫図書調査、就美大学講師 竹内洪介氏以下閲覧。

二九日 浅澤杜月詣、高階禰宜奉仕。鹿児島市照國神社例祭、神武宮司参列、高階禰宜随行。

三〇日 大阪市防火管理協会表彰式、岡権宮司出席。七五三詣撤下奉製作業公開、産経新聞・毎日新聞取材。

三一日 定例清掃。職員会議。南海電気鉄道(例)役員懇親会、神武宮司・加藤 岡権宮司、高階禰宜出席。

住吉さんと太閤さん 第十一回

——大政所延命祈願状をめぐって——

就実大学講師 竹内 洪介

住吉大社と豊臣秀吉——どちらも古くから大阪で愛され、親しみを込めてそれぞれ「住吉さん」「太閤さん」と呼ばれた存在です。ここでは、江戸時代に流布した秀吉の伝記的資料を中心にして、そんな「住吉さんと太閤さん」の意外なかわりを探ってみたいと思います。

来月から「豊臣兄弟！」(NHK大河ドラマ)がスタートします。私自身は関係者でもなんでもないのですが、去年くらいからやたらに仕事が増えました。新聞や雑誌の取材までやってきて驚愕しましたが、振り返ってみれば私のようなところにまでそうした依頼がやってくるのは、秀吉の研究者としては私が極めて異色の部類に属するからでしょう(専門が文学で、歴史的事実を放り出して伝説ばかり追っているヘンテコな研究者は私くらいいません)。文学者の端くれにも拘わらず、そうした依頼の中には歴史学的なものもあり、専門を説明した上でいくらかはお受けしています。その中で見つけたのが、今回ご紹介する豊臣秀吉の住吉大社宛書簡でした。

今、「大政所延命祈願状」として社宝の一つとなっているこの文書は、縦四十二・五糎×横六十五・五糎の大判の高檀紙を使用したものです。巻末にある秀吉の花押も含めて、祐筆の手になるものでしょう。花押も含めて、というのは、秀吉の花押は「花押型」と一般に呼ばれる印章を

用いることもあり、今回の場合は本人による自筆ではないからです。名古屋博物館が二〇一五年四月～五月にかけて開催した「秀吉文書を読む」という展示で紹介された四種の文書では、秀吉がその出世に伴って紙が大きく、厚くなること、花押と朱印が使い分けられ、相手に対する礼が一般に高い花押が天正十三年くらいまでは常用され、それに比して低い朱印が天正十二年以後常用される傾向があることが示されています。このあとお示しすることですが、住吉大社宛書簡が天正十六年のものにも拘わらず花押が用いられていることを勘案すると、花押型が使われたとはいえ、それなりの敬意を払って作られ、そして送られたことは間違いなさそうです。文書の寸法も当時の秀吉の勢力を反映する大判のもので、その権威性を象徴します。住吉大社の中でも大切に保管されているもので、文書には丁寧な裏打ち補修が施されています。以下、文書に示された原文と書き下しをお示しします。

(原文)

猶以命儀三ヶ年

不然者二年実々不成者

三十日にても憑被思召候

今度大政所殿

頃於本腹者、為

奉加壹万石可申

付候条弥可被抽

懇祈事專一候也

六月廿日

(秀吉花押)

住吉

(書き下し)

猶もつて、命の儀、三ヶ年

しからずんば二年、実に成らずんば

三十日にても憑みおぼしめされ候

今度大政所殿

わずらい本腹ふくにおいては

奉加ほうかとして一万石申し付くべく

候条、いよいよ懇祈こんきを

ぬきんぜらるべき事專一に候也

六月二十日

(秀吉花押)

住吉

内容は非常に明快で、大政所(秀吉の実母)が病に臥せているので、いよいよの(ということはすでに何度も要請していることなのでしょう)「懇祈」を願いたい、三年、二年、いや三十日も延命させてもらいたい、この病が癒えたならば「奉加」として一万石を差し上げる、というものです。文書日付は六月二十日で、一見発行年がわかりませんが、類似の「懇

祈」を求める要請が畿内の諸社寺に送られているので、天正十六年(二五八八)のことと確定できます。秀吉の親孝行は読者の方ならきつとご存知のことでしょう。この時期、すでに老体であった大政所は病がちであり、この四年後に亡くなるまで、数度となく病の床に伏しました。秀吉は祈禱を諸社寺に懇請し、大政所の健康が恢復したのちに寄進を行っています。たとえば、多賀大社に残る天正十六年六月二十日付の覚書によれば、同様に懇請があった畿内十三の寺社にも同様に一万石の寄進が行われ、それぞれ約束通り一万石の寄進がなされたことがおよそわかっています。一万石といえば相当な額で、たとえば祇園社の場合で言えば、天正十九年(二五九二)九月十三日に秀吉朱印状によって確定される社領が「百四拾石」ということです



↑大政所延命祈願状(住吉大社蔵)。



↑大政所延命祈願状（複製）。



↑伏見稲荷大社楼門。秀吉による一万石の寄進によって、
天正17年（1589）に建立されました。

から、なんとその数十倍の寄進がもたらされたわけです（以上、河内正芳「秀吉生母大政所の「御煩」と伏見稲荷社」参照）。住吉大社にはこの一万石がどのように運用されたかという記録は残っていないようですが、秀吉の財力、そして畿内十三社のうちの一つに住吉大社が選ばれたことに、当時の住吉さんと太閤さんの関係性をうかがわせるものがあります。

ところでこの書状のおもしろさは、複製が市場に流通しているところですよ。なんと私も手に入れることができましたが、どうやらこれは住吉大社が戦前に複製したもののようです。もちろん杜宝、秀吉の重要な古文書の一、ということでも複製されたのですが、そもそも数ある杜宝の中からどうして大政所あての文書が取り上げられたのでしょうか。以下、邪推がまじりますが、私の勝手な妄想にお付き合いください。

そもそも、大政所はどのように認知された存在だったのでしょうか。正確にはその院号から「天瑞院」とよばれますが（大政所は関白の母親を呼ぶ一般的呼称）、『日本人名大辞典』には下記のように説明されます。

戦国―織豊時代、豊臣秀吉の母。／永正十年生まれ。織田家足輕木下弥右衛門にとつぎ、のち筑阿弥と再婚。天正十三年秀吉の関白就任とともに従一位に叙され大政所とよばれる。十四年徳川家康との和議のため三河（愛知県岡崎城に人質となった。晩年は聚楽第ですごした。子はほかに日秀尼、羽柴秀長、朝日の方。天正二十年七月二十二日死去。八十歳。名はなか。

ここにあげる大政所の略伝は、読者の方ならよくご存じのことでしょう。しかし現代の歴史学的知見から言えば、例えば「なか」という名は本当にそうだったかわかりませんし、秀吉の父にあたる大政所の夫が木下弥右衛門であるのか筑阿弥であるのか、その二名が果たしてそもそも実在したのか、まったくわからない状況です。今このような略伝が伝わるのは、江戸期に秀吉の親族について記したものととても広く伝わった『太閤素生記』の影響が大きく、そこでは秀吉の母が尾張国御器所村に生まれ、木下弥右衛門に嫁して秀吉と瑞龍院（日秀尼）を生んだこと、大政所と号したこと、文禄元年（天正二十年に同じ）の秋に死去し



↑ 国立国会図書館蔵『太閤秀吉出生記』。『太閤素生記』と同一の本文を持ちます。延宝8年（1680）写。

たこと、秀吉がその死に目に会えなかったことなどが示されます。

『太閤素生記』の著者・土屋知貞の養母は秀吉の出自とされる中々村の代官稲熊助右衛門の娘と伝われます。この女性は秀吉とほぼ同じ年ごろで、この出自譚を著者に物語ったとされます。話の出しが明示されているので、一見すると良質な史料にみえますが、現在の歴史学研究ではその内容に誤りも指摘されてきています。同書は当初写本で伝来し、江戸時代中期に『遺老物語』（目下部景衡編。『太閤素生記』は第七巻に収められます）の一編として広まりました。現在所蔵される『関ヶ原合戦誌記』（全四十八巻中、巻一のみ現存。岩瀬文庫蔵）の冒頭部は『太閤素生記』の伝承をそのまま抜書きしており、同書の述べる秀吉の出自が江戸時代においてかなり受容されていたことが推察されます。とはいえ、江戸時代を通じて大政所が今ほど注目されていたわけではありません。この問題は秀吉の妹朝日姫についても同様に言えることですが、江戸時代を通じてはむしろ秀次をはじめとした豊臣家の要人の生母としての立場を得、最終的に九条関白家に嫁いで長寿を全うした日秀尼に焦点があたり、家康に嫁いだとはいえ僅か三年後に早世した妹朝日姫や、秀吉の孝行話の種にのみ使われて本人の事績が伝わらない大政所の記録が薄くなるのはある種当然のことであつたはずです。

ところが、大政所（とその娘朝日姫）は近代になって突然、歴史の表舞台に現れます。詳しくは拙稿（『家康徹底解説』所収）に説いていますので紙幅の関係上結論のみ述べますが、その舞台は『日本人名大辞典』に挙げられている「徳川家康との和議の

ため三河（愛知県）岡崎城に人質となった」という点にあります。この場面は小牧・長久手の戦いと呼ばれる秀吉と家康の直接対決としてよく知られる戦争の最終局面に現在位置づけられるもので、秀吉が人質として実妹と実母を送り、家康に上洛を促したという、いわば家康の優位性を印象付ける婚姻騒動として記録されています。実際に発生したこの婚姻騒動は、『三河物語』・『豊鑑』・『東照軍鑑』・『長久手記』（内閣文庫蔵一七三書写本）・『小牧陣始末記』（成立年代未詳）および『徳川実紀』（二八四正本完成）といった一部の写本群に記録され



→参謀本部編『日本戦史 小牧役』
（明治四十一年刊、国立国会図書館蔵）。

参考文献

- ・伊藤宗裕「秀吉母大政所本復祈願文書について」（『朱』第四十五号、二〇〇二年）
- ・河内正芳「秀吉生母大政所の『御煩』と伏見稻荷社」（『朱』第六十四号、二〇二二年）
- ・竹内洪介「小牧・長久手の戦い 虚像編」（堀新・井上泰至編『家康徹底解説』所収、文学通信、二〇二三年）
- ・竹内洪介「秀吉の出自はどういわれてきたのか」（河内将芳編『秀吉と豊臣一族研究の最前線』所収、山川出版社、二〇二五年）

付記

本稿は、JSPS科学研究費（22K20041）の助成を受けたものです。成稿にあたり、神武徳彦権禰宜のご教示を賜りました。また、特別に大政所延命祈願状の原本調査もご許可いただきました。記して深謝申し上げます。

るにすぎません。この騒動が注目されるようになるのが近代からのことで、特に参謀本部編『日本戦史 小牧役』（明治四十一年）が結節点となります。この中で大政所と朝日姫の三河下向が取り上げられたのを機に、吉川英治や山岡荘八、司馬遼太郎らの小説に、戦争に翻弄される女性表象の観点からもこの題材が取り上げられるようになり、必然的に大政所の印象は深まっていたと考えられます。とりわけ渡辺世祐『豊太閤とその家族』（大正八年）は大政所をはじめとした秀吉の家族を近代においてはじめて考証し、当時秀吉の親族に大きな関心が寄せられていたことをうかがわせます。住吉大社が大政所祈願場を複製したのも、おそらくはそうした時代の影響を受けたものであったのではないでしょうか。勝手な邪推ながら、あえての私見を加えたくります。

次回も住吉大社に伝わる珍資料を取り上げます。その名も『絵本武勇大功記』。今度はごく一般的な幕末の印刷物ですが、なぜ珍しいのでしょうか。次回も引き続き、よろしくお付き合いください。

観月祭 献詠入選作品

(令和7年10月6日)

後援…産経新聞社 協賛…末廣堂

短歌

選者…安田純生、佐沢邦子、香川ヒサ

天位

五十年母の守りて来し畑にこよひ粲粲と秋の月照る

青森県

安田 漢子

(評) 母への敬慕の思いを寿ぐように照る秋の月が美しい。

地位

負はれぬし子猿はどこに眠りぬむ背中剝がれし埴輪の母猿

大阪府

梶田有紀子

(評) 埴輪の母猿の傷みを歌う。子猿の行方を思う作者の眼差しは限りなく優しい。

人位

漆黒の涸沢カールに寝ころびて今日の月みて明日から縦走

大阪府

赤澤 皆

(評) 壮大な自然に抱かれて見た月が、明日からの縦走を励ましている。

佳作

綺麗だね貴方と同時に呟いて顔を見合わせ月に微笑む
予後不良告げられたりし馬の影ならむや月をいま翔りゆく
月夜道子らはしやぎおり地に動く小さき影を比べあいつつ
百歳のわれを見守り朝月は散歩の道々つきそいくるる
風の道ここにもありて衿元より入り袖口に抜ける涼風
去年の月見ずに伏しぬし妹の写真を今宵縁側に置く
銀沙滩憂ひを含む月光の砂の波紋のその美しさ

月光に背なかをぬらしみずくらげきらめきながら川のぼりゆく
島に子の生れし喜びの鬼揚子風に高鳴り空の澄みゆく
丸き月楡の木の上に出ずる見え妻の帰りを待てて待ちおり

(総評)

名月を見て亡き父母を想い、月に社会の平安を祈念する歌が多かった。
観月という伝統行事が日本人の心を結ぶ絆であると改めて感じた。(香川ヒサ)

茨城県	松本 康恵
東京都	遠藤 玲奈
兵庫県	大石 佳子
愛知県	天野 マスミ
兵庫県	前田 あつ子
埼玉県	横島 茂
大阪府	富永 武司
東京都	野上 卓
山口県	森元 輝彦
大阪府	古川 秀男

俳句

選者…古賀しぐれ、森田純一郎、小杉伸一路

言の葉の玉なす月の祭かな

兵庫県 柏木 由美子

天位

〔評〕 住吉大社の観月祭は八十年前から行われている。壮大な月見の宴である。その観月祭に捧げる和歌・俳句のことであろう。「言の葉の玉なす」の措辞が素晴らしい。大和言の葉の優雅なしらべにのる観月祭が浮かび上ってくる。

ゆつくりと墨すり月を待ちにけり

三重県 平田 冬か

地位

〔評〕 月見の日のしずかな佇まいが感じられる。おそらく詠まれた句を短冊に認められる為にゆつくりと墨をすり、心を落ちつけられているのであろう。日本人独特の月見の夜の景色が思われる。

発句のある国に生れて今日の月

大阪府 奥野 とほる

人位

〔評〕 「発句のある国」とは俳句を詠む日本のことであろう。花鳥風詠の俳句は、四季のある美しい国、日本ならではの詩である。「今日の月」を愛で、俳句を詠う日本の幸せを語る句である。

虫の夜や子に読み聞かす冒険記

千葉県 大内田 芳乃

住吉の松に凭れて月待ちぬ

鳥取県 坂口 恵子

あふれ降る光分ちて月の客

兵庫県 平 敦子

反橋は一夜依代月の宴

大阪府 高田 佐土子

句碑の文字青畝とわかる良夜かな

大阪府 稲垣 美知子

歌神の静かに降りて来し月夜

兵庫県 清水 貴美代

賜はりし杖もて月へ二歩三歩

兵庫県 出店 智恵呼

偕老の影の静かに月の緑

兵庫県 塩見 成子

月に詠む大和ことばの調べかな

兵庫県 仲井 慶舟

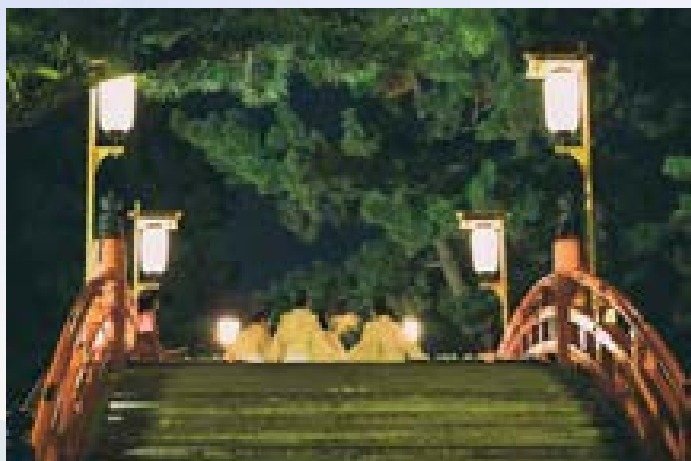
蘭陵王まなこ鋭く月に舞ふ

兵庫県 渡辺 しま子

(総評)

毎年の観月祭に募集される句の数々。同じ季節同じ設定での募集であるので、どうしても類想類句が多くなってしまう。それをどう打ち破るかが課題であろう。今回の入選句は、さまざまな設定の句があり、味わい深い一句一句となりました。

(古賀しぐれ)



装花室のこたわめ

（非日常空間に彩を）

装花室では住吉大社の結婚式における披露宴会場を装花で彩り、会場を華やかにするだけではなく一期一会の空間を作り上げ、特別な日におもてなしの心を伝える大切な役割を担っております。

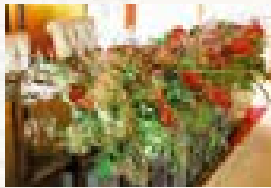
新郎新婦の希望を伺いながら、お客様にとって心に深く刻まれる結婚式を創り上げるために、季節折々の花を用いて季節感を演出し、時が経ち写真に写る装花を見るだけで結婚式を挙げた季節を追憶いただけるような空間演出を心掛けております。

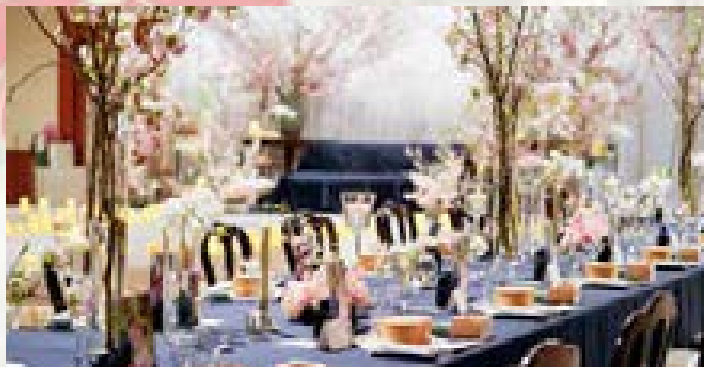
高砂装花

新郎新婦の門出にふさわしい席を高砂席と呼び、お花を飾ることでより華やかに特別な空間を演出します。

ヘッド装花

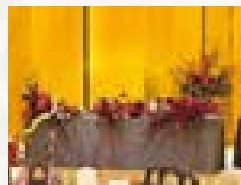
白無垢や色打掛に合わせたヘアースタイルとして、伝統的な日本髪のかつらより洋髪スタイルに生花を付けられる花嫁様が増えております。髪型に合わせた花の種類や色打掛の色合いに合う花を提案し、飾る際に一番綺麗な状態になるように花の開花調整を行い加工いたします。





高砂背景

高砂席には「今後の人生が金色に輝くように」という願いを込めて金屏風を置くことが最も多く、装花が琳派のような屏風画に見え、豪華で華やかなデザインとなります。



卓上装花

ゲストが披露宴会場の席に着かれた際、一番初めに目に入るのが卓上装花です。視覚的な美しさにより非日常の空間を演出し、特別な時間を作ります。



ウェディングブーケ

花嫁様の美しさを引き立てる役割に加えて、愛や幸福を象徴するブーケ。和装の際にも持たれる方が増えております。和装ブーケでは洋装ブーケではなかなか使用できない洋菊などを入れることができ、とても華やかで美しい装いとなります。

このように、新郎新婦を始め披露宴出席の方々に感動を与えられるよう、花の色彩、種類によって和風からナチュラル、クラシックといった様々な空間を演出しています。

結婚式以外では、毎月の初辰日には手水舎の花手水、秋の観月祭では反橋上に秋の七草を使用した壺花など、祭礼における奉仕をはじめ、食事会や会議に彩を添える演出をおこなっております。

住吉大社吉祥殿 装花室



令和7年8月20日

末廣堂 斉藤裕昭様奉納



浪華住吉名物「さつま焼」を奉製されている大阪市住吉区東粉浜の末廣堂 斉藤裕昭様所蔵の千足猿が奉納されました。

住吉人形で、家内和合、そして協力・共同一致の縁起物である「組み猿」の中で、特に大きなものを「千足猿」と称します。現在、当社では十体組の千足猿を平成二二年に復刻したものを授与所にて頒布しています。

本品は住吉土偶師「亀治」の最後の当主・亀井雅吉の手による傑作で、住吉詣の土産として名が知られた土人形「住吉人形」の代表作として貴重な民俗郷土資料です。後世に永く伝えてゆきたいものです。

神符授与所新設 祈祷受付改装

これまで、神符授与と祈祷受付を同じ窓口で行ってまいりましたが、繁忙期における混雑緩和のため、令和七年七月二十一日より神符授与所を幸寿門北側に新設。これに伴い、従来の祈祷受付所を改装いたしました。別棟に分けることで間口も広くなり、ゆつくりと神符を選んでいただけるようになりました。



幸寿門北側に新設された神符授与所



陳列された御守



祈祷・御供受付所

ご祈祷料改定のお知らせ

当社におきましてはご参拝の皆様方のお気持ちに添うべく、ご祈祷の初穂料（ご祈祷料）を長年にわたり据え置いて参りましたが、このたび諸般の事情により、やむなく改定することと相成りました。

つきましては、来年度より左記の通り改定いたしますので、何卒ご理解いただきますようお願い申し上げます。

記

【改定前】

【改定後】

個人祈祷 .. 五,〇〇〇円 ↓ 一〇,〇〇〇円

交通安全 .. 七,〇〇〇円 ↓ 一〇,〇〇〇円

※従前一〇,〇〇〇円のご祈祷（初宮詣・七五三詣・安産等）は初穂料を据え置きます

※尚、お急ぎの方・体調にご不安のある方のため、昇殿なさらずに、五,〇〇〇円にて、ご祈祷のみ申し込む「お預かり祈祷」をお受けいたします。

お預かり祈祷 .. ご祈祷の場所には入らず、

おさがり（お札・お守り）を

受付にて直接お受けいただく方法。

みなさまのお願い事は、当日中に神職がご祈祷いたします。

※お預かり祈祷は個人祈祷の方のみ対象です。

【実施日】 令和八年四月一日より

以上

令和8年

住吉大社の 初詣

三が日は大変混み合いますので
余裕をもって初詣におこしくださいますようお願いいたします。

年 末 年 始 開 閉 門 時 間	12月31日	開 門 22:00	→
	1月1日	→	閉 門 20:00
	1月2・3日	開 門 6:00	～ 閉 門 19:00
	1月4・5日	開 門 6:00	～ 閉 門 18:00
	1月6日～	開 門 6:30	～ 閉 門 17:00

P 12月31日～1月3日迄、交通規制に伴い駐車場閉鎖。
お車での参拝はできません。

- 住吉大社駐車場は有料です。
- 1月中は大変混雑が予想されますので公共交通機関をご利用ください。
- 令和8年1月4日～令和8年2月1日までの駐車料金は以下の通りです。

普通車 1時間／1,000円

※ご祈祷をお受けの方は2時間無料。

大型車（バス） 1時間／2,000円

※大型車は12月31日～1月15日まで入庫できません。

白馬神事 1月7日 11時 神馬奉仕期間 12月21日～1月7日 白馬神事まで。

五大力石守(石拾い)・釣りみくじは、12月31日～1月4日 の期間閉鎖します。

年末年始(12/31～1/5)、露店の出店はありません。

安心してご参拝いただくために



混雑状況により、
入場を制限する場合があります。



体調がすぐれない場合は
参拝をおひかえください。

最新情報はホームページより

初詣情報



初辰まいり



令和八年（二〇二六）

上半期の祭事暦

1月1日 (木)	若水の儀・歳日祭（中祭） 本宮・各摂末社
3日 (土)	元始祭 本宮
4日 (日)	踏歌神事 本宮
5日 (月)	初卯祭 本宮
7日 (水)	白馬神事・昭和天皇祭選擇 本宮・選擇所
9日 (金)	市戎・大國社宵宮祭（宵えびす） 末社・市戎・大國社
10日 (土)	市戎・大國社例祭（本えびす） 末社・市戎・大國社
12日 (月)	若宮八幡宮例祭（湯立神事） 摂社・若宮八幡宮
13日 (火)	御結鎮神事 本宮・神館前庭
15日 (木)	古札焼納式（とんど） 南駐車場
2月1日 (日)	新年献詠祭 本宮・神樂殿
3日 (火)	今主社例祭 末社・今主社
11日 (水)	立間社例祭・海士子社例祭 末社・立間社・海士子社
27日 (火)	節分祭 本宮
3月1日 (日)	紀元祭（中祭）・橿原神宮選擇 本宮・選擇所
23日 (月)	天長祭（中祭） 本宮
3月5日 (木)	侍者社例祭 末社・侍者社
17日 (火)	種貸社神種頒賜祭 末社・種貸社
20日 (金)	祈年祭（大祭） 本宮
4月3日 (金)	皇靈祭選擇 神樂殿
4日 (土)	招魂・社春季例祭 末社・招魂社
6日 (月)	松苗神事・神武天皇祭選擇 本宮・選擇所
9日 (木)	五社春季例祭 末社・五社
10日 (金)	正印殿祭 後村上天皇住吉行宮跡
14日 (火)	種貸社例祭 末社・種貸社
15日 (水)	楠玉稻荷社例祭 境外末社・港住吉神社
17日 (金)	鉾社例祭 末社・鉾社
20日 (月)	おいとしぼし社春季例祭 末社・大蔵社
29日 (水)	島津忠久公誕生記念祭 誕生石
5月1日 (金)	昭和祭（中祭） 本宮
5日 (火)	卯之葉神事 本宮・武道館前広場
6日 (水)	初辰・大祭・楠垣社例祭 本宮・五所御前・石舞台
14日 (日)	新宮社例祭・浅澤社例祭 末社・楠垣・種貸・大蔵社
15日 (月)	貴船社例祭 末社・新宮社・浅澤社
30日 (火)	御田植神事 末社・貴船社
15日 (月)	八所社例祭 本宮・御田
30日 (火)	大祓 末社・八所社

※朔日・卯之日・十五日・初辰祭などの恒例祭等に準ずるものは省略

第45号の表紙

イラスト素材は当社の神馬をかたどった住吉人形。
古来、白馬神事が行われる一月七日に当社の神馬を見ると、この年の
邪気が祓われるという信仰がございます。午年が重なる令和八年は、
例年以上に多くの方が縁起を担ぎに参拝されることでしょう。

住吉人形

さつま焼

元祖 さつま焼（登録商標）

さつま焼はその昔
住吉の物産であつたさつま芋を
形どつたなにわの味、
昔からの銘菓であります。
十勝小豆を精製した
淡泊な味のこしあんを、
秘伝の皮で包み、
心を込めて、一本一本竹串に刺して
焼き上げております。

幾星霜の老舗の味を、ご賞味ください。

摂津一之宮 住吉大社御用達御神饌調達処
御菓子司 株式会社 末廣堂

本店 大阪市住吉区東粉浜三丁目一ノ二一四
TEL 06(6677)4028
06(6677)8130
FAX 06(6677)3019

毎週火曜定休日



令和7年(2025) 12月15日発行(年2回発行)

発行人 神武磐彦 発行

住吉大社

住所

大阪市住吉区住吉2丁目9番89号

Tei

06.6672.0753

印刷 真生印刷株式会社

初辰まいり



住吉大社



今年からでも
おそくはない。

2026 1月 令和8年

18
日曜